

四国圏広域地方計画

計画の概要



平成28年 3月

【目次】

1. 広域地方計画の概要
2. 四国圏の発展に向けた基本方針
3. 四国圏の発展に向けた取組
4. 広域プロジェクト
5. 他圏域との連携

1. 広域地方計画の概要

国土形成計画について

国土形成計画の枠組み

根拠法：国土形成計画法
(国土総合開発法の抜本改正により平成17年に公布)

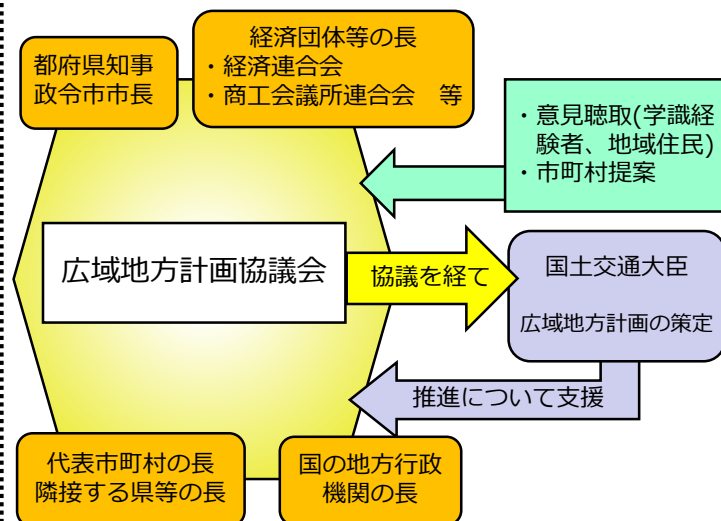
新たな全国計画（平成27年8月閣議決定）

- 長期的な国土づくりの指針（閣議決定）
- 地方公共団体から国への計画提案制度



現行の広域地方計画（平成21年8月策定）

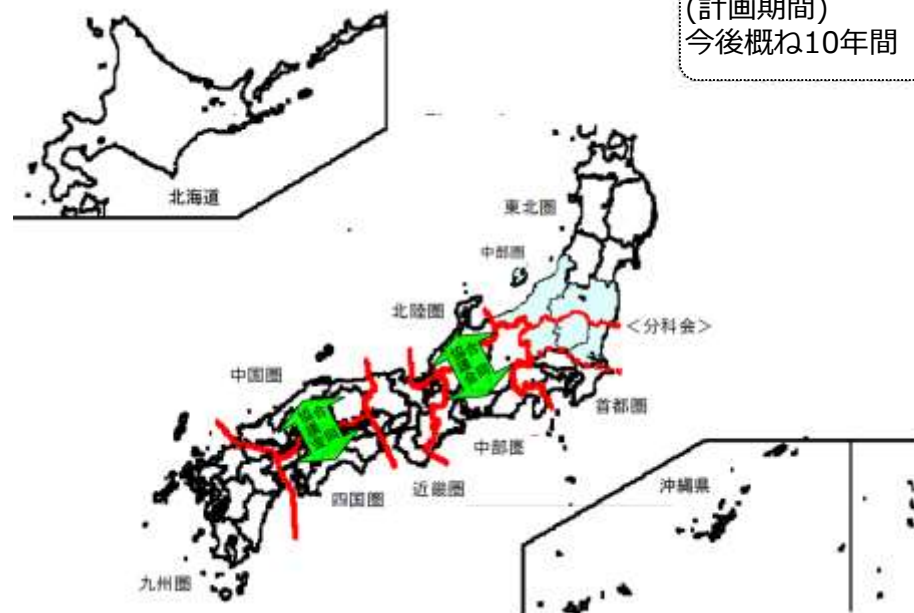
- 国と地方の協働による広域ブロックづくり
- ・国、地方公共団体、経済団体等で広域地方計画協議会を組織し、計画及びその実施に関し必要な事項について協議



新しい国土像

多様な広域ブロックが自立的に発展する国土を構築するとともに、美しく、暮らしやすい国土の形成を図る

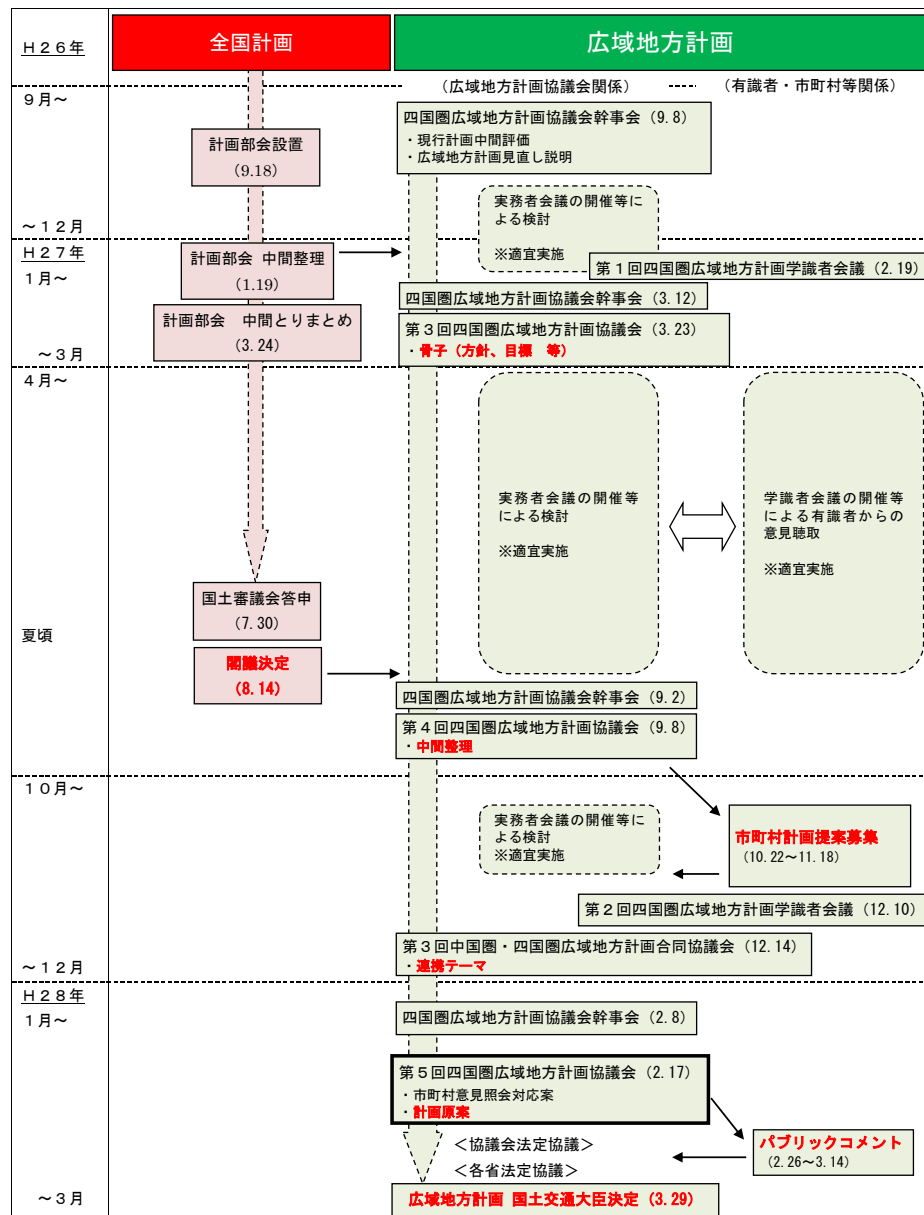
(計画期間)
今後概ね10年間



- ・広域ブロックごとに**特色ある戦略**を描く
- ・各ブロックの**交流・連携**、相乗効果による活力
- ・各地域が相互に補い合って**共生**
- ・文化・伝統や個性ある景観など美しい国土の再構築

2) 四国圏広域地方計画について

【四国圏広域地方計画策定に向けたスケジュール】



【四国圏広域地方計画協議会】

■ 国の地方支分部局

警察庁	四国管区警察局長
総務省	四国総合通信局長
財務省	四国財務局長
厚生労働省	中国四国厚生局長
農林水産省	中国四国農政局長
経済産業省	四国森林管理局长 中国経済産業局長 四国経済産業局長
国土交通省	四国地方整備局長 四国運輸局長 大阪航空局長
気象庁	大阪管区气象台長
海上保安庁	第五管区海上保安本部長 第六管区海上保安本部長
環境省	中国四国地方環境事務所長

■ 地方公共団体

徳島県知事、徳島県市長会長、徳島県町村会長
香川県知事、香川県市長会長、香川県町村会長
愛媛県知事、愛媛県市長会長、愛媛県町村会長
高知県知事、高知県市長会長、高知県町村会長

■ 関係団体

四国経済連合会長
四国商工会議所連合会長

計 29 機関

2. 四国圏の発展に向けた 基本方針

社会の潮流

四国圏広域地方計画の策定に当たっては、我が国を取り巻く社会の潮流を的確に認識することが必要

急激な人口減少・少子化、異次元の高齢化の進展

巨大災害・環境問題等の安全に対するリスク・不安の増大

高度な産業技術化・ICTの劇的な進化等技術革新の進展

産業・雇用構造の変化と地域間競争の激化

広域交流の拡大・グローバル化の進展

価値観・ライフスタイルの多様化と心の豊かさの重視

「共助社会づくり」の拡大・多様化

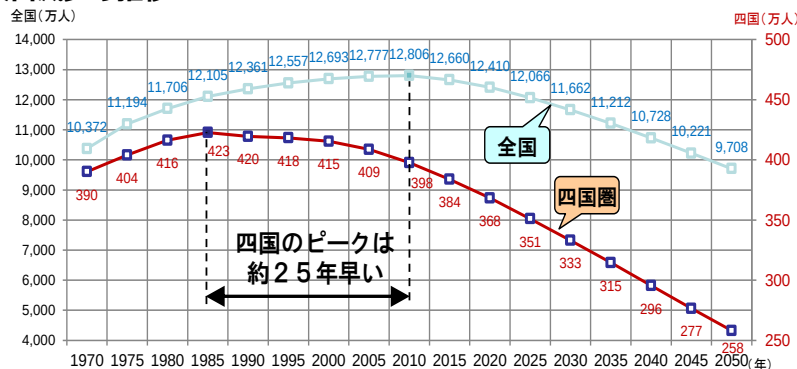
四国圏の現状と課題

1. 四国圏の概要

- 四国圏の人口は2014年10月1日現在で約3.1%（約388万人）であり、1985年の約423万人をピークに減少に転じている。
- また、2014年の65歳以上の高齢者の割合は30%と、圏域全体での人口減少は全国より約25年早く、高齢化も約10年早く進行している。

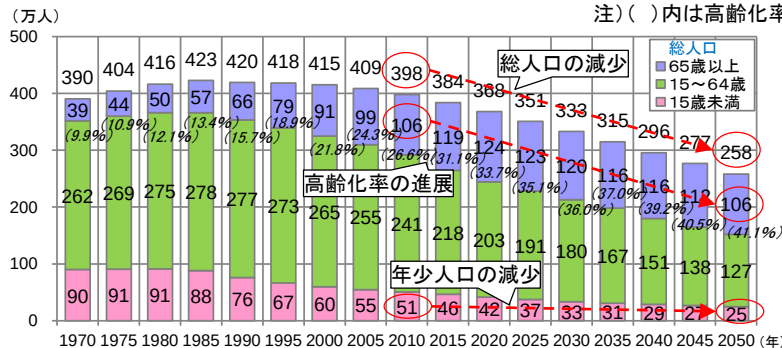
- 気候は温暖で、世界有数の内海である瀬戸内海と雄大な太平洋に面し、西日本最高峰である石鎚山に代表される急峻な四国山地や日本屈指の清流である四万十川等が存在するなど、変化に富む豊かな自然環境を有している。
- 瀬戸内海や紀伊水道、豊後水道を介して中国圏・近畿圏・九州圏に隣接しており、古くから瀬戸内海を中心に活発な交流が行われ、四国遍路や金刀比羅宮参拝等の独自の文化が育まれている。

■人口減少の推移



■四国圏の推計人口及び構成比の推移

注) ()内は高齢化率



出典) 2040年まで：国立社会保障・人口問題研究所「都道府県の将来推計人口（平成25年3月推計）」

2045年：四国地方整備局作成

2050年：国土交通省 国土政策局

石鎚山（愛媛県西条市・久万高原町）



金刀比羅宮（香川県琴平町）



四国遍路



四万十川（高知県）



鳴門の渦潮（徳島県鳴門市）

四国圏の現状と課題

2. 安定した社会を支える安全・安心な四国圏の創出

・南海トラフ地震により想定される甚大な被害、台風や集中豪雨による水害、土砂災害、渇水被害等の自然災害から生命や財産を守り、安全・安心が確保された災害に強い四国圏をつくることが求められる。

① 南海トラフ地震に対する安全・安心の確保

- ・今後30年以内に発生する確率が70%程度と予測されている南海トラフ地震は、最大クラスの地震で震度6強から震度7の強い揺れを四国全域で発生させるとともに、地震により発生する津波は太平洋沿岸域の高知県土佐清水市や黒潮町等においては30mを超える巨大な津波となって襲来すると想定されている。

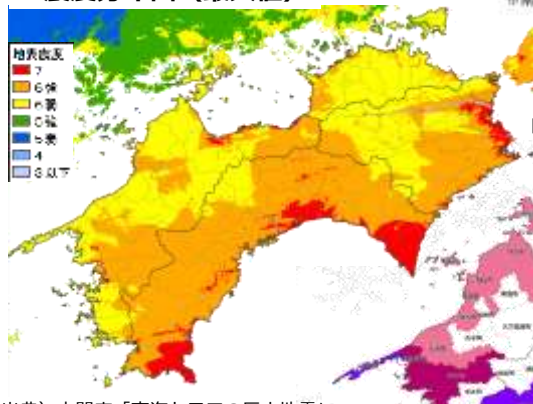
■ 南海トラフ地震についての予測

	南海トラフ
規模	M8~9
発生確率	30年以内に70%程度
想定死傷者数(四国全体)	死者：約9.6万人 負傷者：約15.2万人

出典)内閣府「南海トラフの巨大地震モデル検討会(第一次報告)平成24年8月29日

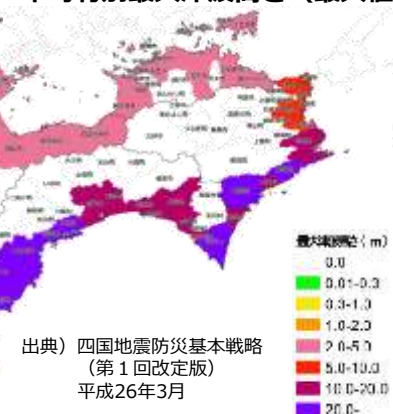


■ 震度分布図(最大値)



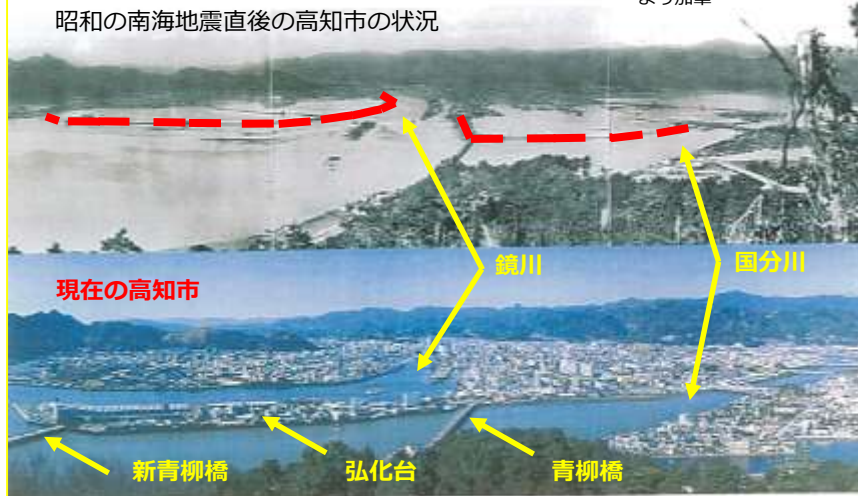
出典)内閣府「南海トラフの巨大地震による津波高・浸水域等(第二次報告)2012.08」
(強震波形4ケースと経験的手法の最大震度重ね合わせ)

■ 市町村別最大津波高さ(最大値)



■ 昭和の南海地震による被災状況(高知市)

出典)高知県防災パンフレット「南海地震に備えよき」より加筆



■ 東北圏と四国圏の類似性【三陸リアスと土佐湾沿岸】

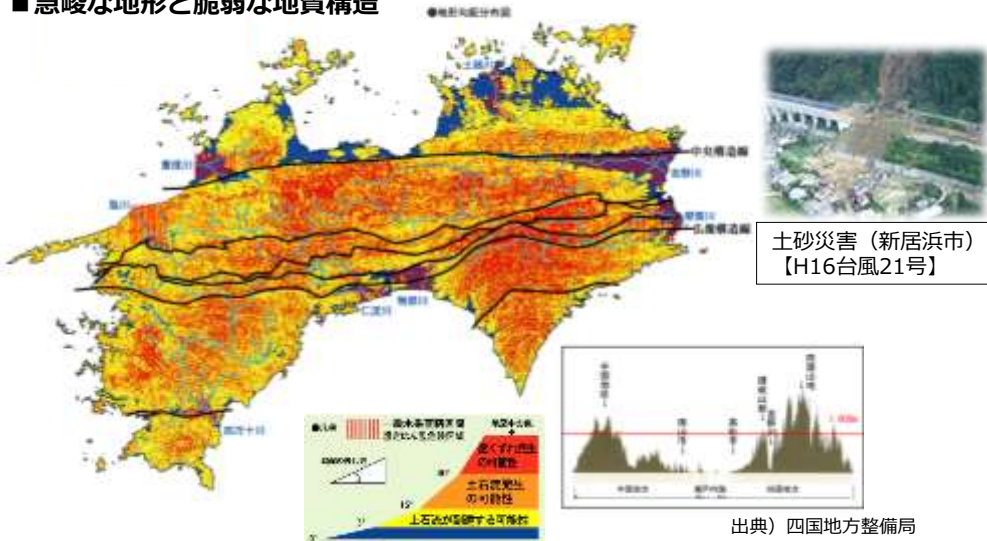


1) 四国圏を取り巻く状況

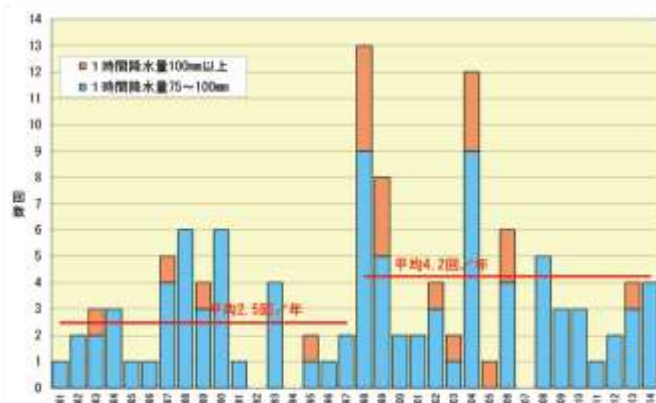
②近年の気候変動により激化する自然災害への備え

- ・四国圏は、急峻な地形と圏域を東西に走る構造線によって脆弱な地質構造にあることから、地すべり危険箇所が四国山地の一帯で多数存在するなど、全国の地すべり危険箇所数の約12%を占めている。

■急峻な地形と脆弱な地質構造



■近年増加している集中豪雨



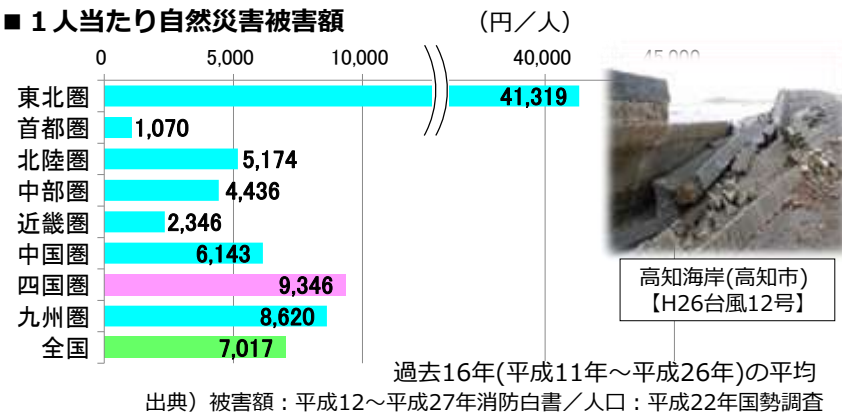
出典）1981～2008年（アメダス年報）2009～2014年（気象庁HP）



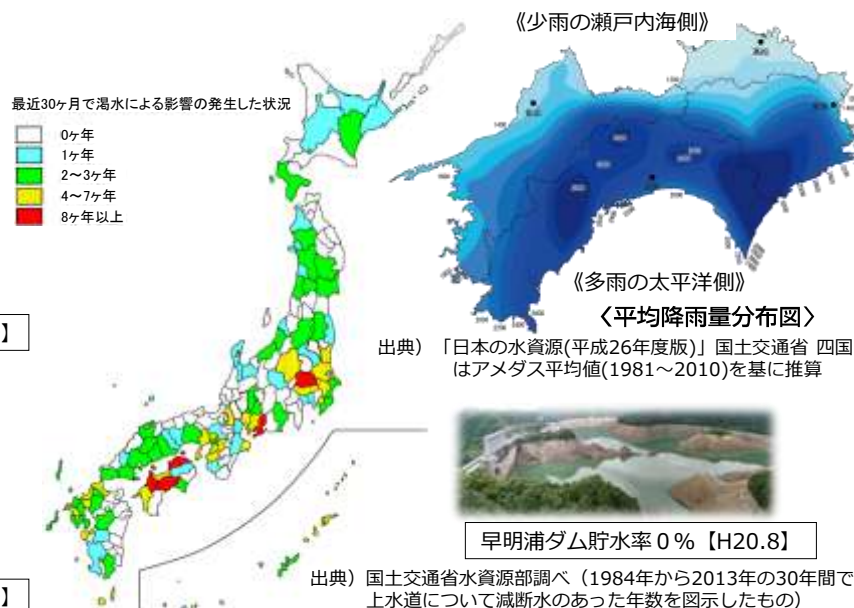
那賀川（那賀町）【H26台風11号】

- ・また、台風常襲地帯にあることに加え、近年、雨の降り方が局地化・集中化しており、今後の気候変動の影響等によって、さらなる水害、土砂災害、高潮災害等の頻発・激甚化が懸念されている。
- ・その一方で、瀬戸内海側は全国でも有数の少雨地帯であり、渇水被害が頻発している。

■1人当たり自然災害被害額



■渇水による影響（最近30年で渇水による影響の発生した状況）

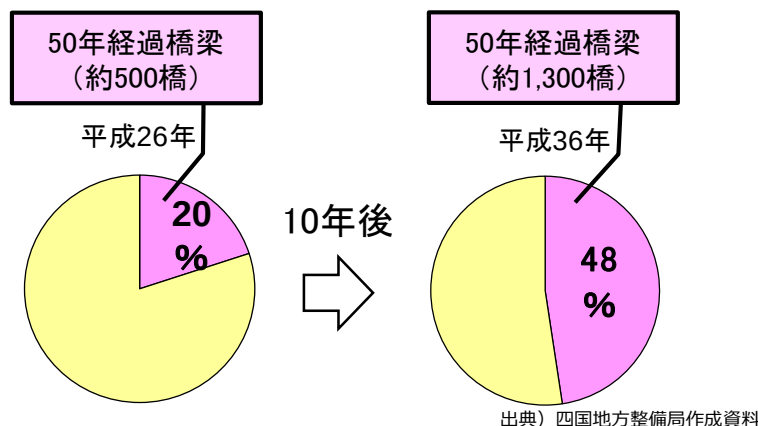


1) 四国圏を取り巻く状況

③急速に老朽化を迎える社会インフラの維持・管理・更新

- 今後10年間で四国圏における直轄国道の橋梁の約半数が建設後50年を経過することなどを始め、河川、ダム、砂防、海岸、道路、下水道、港湾、空港等の社会インフラは今後20年間のうちに老朽化が急速に進むと見込まれていることから、適切な維持管理・更新等を行い、機能維持を図っていくことが必要である。

■四国圏における建設から50年を経過する橋梁の割合（直轄国道の橋梁）



■社会資本の老朽化による被害の例

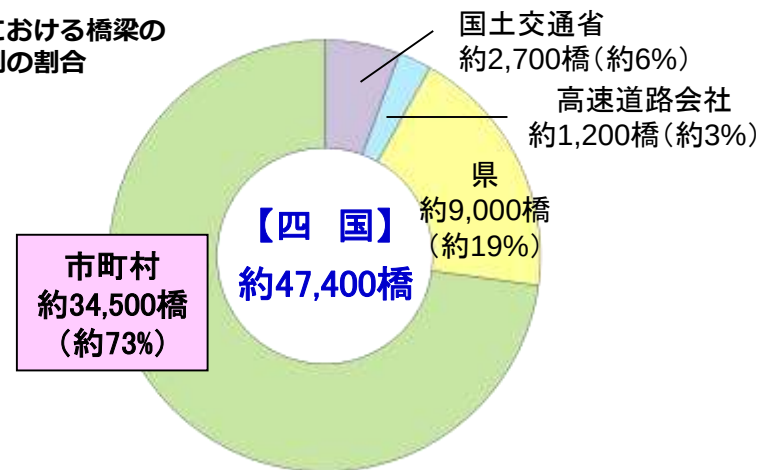
香川県・徳島県境
無名橋（鋼2径間単純トラス橋）
の落橋（2007年）



出典）四国地方整備局

- 四国圏においては、道路橋約47,400橋のうち約73%（2014年12月末現在）が市町村管理となっていることなどを始め、道路、下水道等の社会インフラの多くは市町村が管理を行っている。特に技術面や人員面で課題が多いこれら市町村を国・県が主体となり支援を行うことで、持続可能なメンテナンス体制及びメンテナンスサイクルを構築することが重要となっている。

■四国圏における橋梁の管理者別の割合

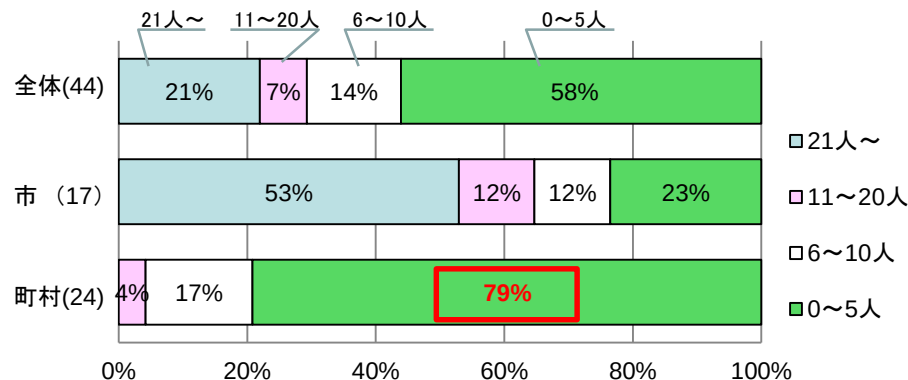


注）四捨五入を行っているため、道路橋の合計は一致しない場合がある。
出典）四国地方整備局作成資料（2014.12末現在）

■四国内の市町村へのアンケート（技術職員の不足）結果

設問：「技術職員の数は？」

出典）四国地方整備局
アンケート実施期間：平成25年11月29日～12月20日
各県経由で市町村に対してアンケート調査を実施
全95自治体のうち44自治体が回答



1) 四国圏を取り巻く状況

四国圏の現状と課題

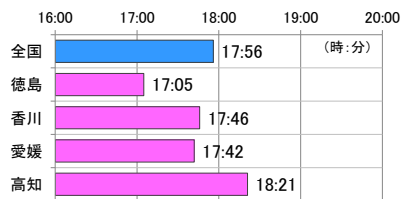
3. 自立的・持続的発展に向けた四国圏の地方創生

・急激に進展する人口減少・少子化、高齢化の中、人々が生き生きと暮らし、誰もが住みたいと思える魅力ある地域づくりを進め、豊富な地域資源や民間の活力を活かして地域の個性を磨き、圏域内外との交流・対流を促進することによって、四国圏の自立的・持続的な発展を実現することが求められる。

① 少子化対策の抜本強化及び若者・女性・高齢者等の社会参画

・生活環境において、四国圏の女性の帰宅時間は徳島県で全国平均に比べ50分ほど早く、保育所等入所待機児童数も2015年4月現在の都道府県計23,167人のうち四国4県を合計しても352人（約1.5%）と少なく、雇用や保育環境の面で他圏域よりも女性が働きやすい環境が整っているほか、1日のうち、余暇を過ごす時間について、愛媛県が男女ともに全国平均を上回っており、徳島県と高知県では男性が全国平均を上回っている。

■ 四国4県の女性の帰宅時間



女性にとって子育てしやすい環境

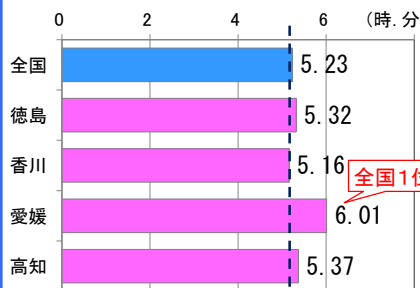
出典) 総務省 2011年社会生活基本調査

■ 四国4県の待機児童数

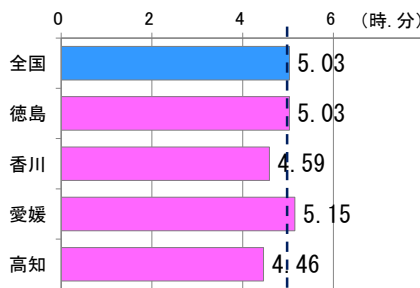
保育所等入所待機児童数	
徳島県	57 人
香川県	129 人
愛媛県	119 人
高知県	47 人
四国4県計	352 人
都道府県計	23,167 人

出典) 厚生労働省 保育所等入所待機児童数 (2015年4月現在)

■ 3次活動の平均時間 (男性有業者) ■ 3次活動の平均時間 (女性有業者)



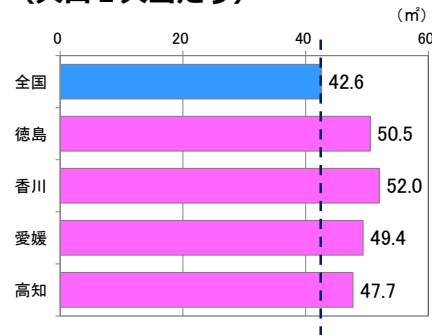
出典) 生活指標「社会生活統計指標－都道府県の指標－」2015 資料: 総務省「社会生活基本調査報告 (2011年)」



<3次活動: 移動 (「通勤・通学」を除く)、テレビ・ラジオ・新聞・雑誌・休養・くつろぎ、学習・研究 (「学業」以外)、趣味・娯楽、スポーツ、社会的活動、交際・付き合い、受診・療養、その他>

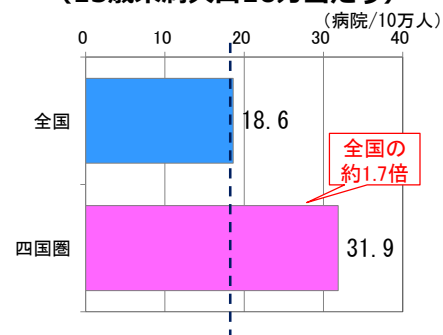
・また、四国各県ともに、住居面において人口1人当たりの住宅の床面積は香川県の52㎡を始め、全国平均の42.6㎡を上回っているほか、医療面においても人口当たりの小児科・小児外科病院数が約1.7倍、介護療養型医療施設数等が約3.1倍と全国平均を上回っている。

■ 住宅の床面積 (人口1人当たり)



出典) 平成26年度固定資産の価格等の概要調査 (家屋 都道府県別表) における住宅類、総務省統計局人口推計 (2014年10月1日現在)

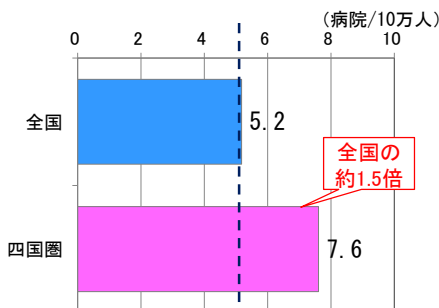
■ 小児科・小児外科病院数 (15歳未満人口10万当たり)



全国の約1.7倍

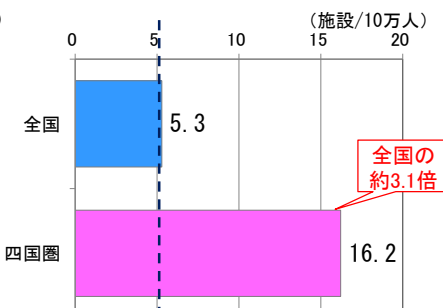
出典) 厚生労働省「平成26年医療施設調査」、総務省統計局人口推計 (2014年10月1日現在)

■ 産婦人科・産科病院数 (15歳～49歳女性人口10万人当たり) ■ 介護療養型医療施設数 (65歳以上人口10万人当たり)



全国の約1.5倍

出典) 厚生労働省「平成26年医療施設調査」、総務省統計局人口推計 (2014年10月1日現在)



全国の約3.1倍

出典) 生活指標「社会生活統計指標－都道府県の指標－」2015 資料: 厚生労働省「2012年介護サービス施設・事業所調査」

1) 四国圏を取り巻く状況

② 地域産業の活性化

- ・四国圏には、高機能素材の一大集積地として、炭素繊維、アラミド繊維など大手先端素材メーカーの世界的な製造拠点や紙関連産業、優れた技術を有するニッチトップ企業等が集積している。
- ・また、全国に比べ第一次産業のウエイトが約2倍程高く、全国有数の生産量を誇る野菜や果物も栽培されており、京阪神地域を中心とした市場への農林水産物の出荷が増加している。

■ 四国圏が誇る日本一・世界一企業・事業所

● シェア世界一 ● シェア日本一

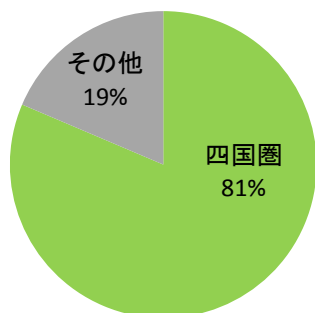
愛媛（世界一：2/日本一：32） ● 東レ(株)愛媛工場(高性能炭素繊維) ● 住友化学(株)愛媛工場(高純度アルミナ、高純度アルミニウム) ● シェア日本一企業：32企業	香川（世界一：5/日本一：28） ● 四国化成工業(株)[プリント配線用防錆剤(タフエース)] ● 帝国製薬(株)(バップ剤) ● 日ブラ(株)(水族館用大型アクリルパネル) ● 東洋炭素(株)炭素事業所(等方性高密度黒鉛) ● 梶マキタ(株)(小型船舶用ディーゼルエンジン) ● シェア日本一企業：28企業
高知（世界一：1/日本一：18） ● ニッポン高度紙工業(株)(電解コンデンサ用セパレータ) ● シェア日本一企業：18企業	徳島（世界一：3/日本一：16） ● 日亜化学工業(株)[LED(発光ダイオード)、蛍光体、リチウムイオン電池用正極材料] ● 坂東機工(株)(自動車用ガラス加工機) ● 梶河野メルクロン(シンビジウムの種苗) ● シェア日本一企業：16企業

四国には、特定の分野で日本一・世界一のシェアを占める企業が100社以上

出典) ウェルカム四国HP「【データから見る四国】四国の日本一・世界一企業(2012.7)」

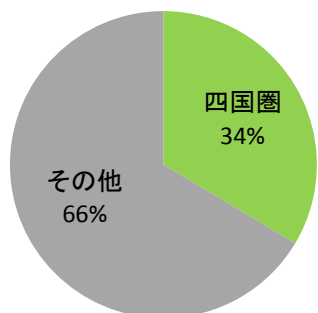
■ 全国有数の生産量を誇る農林水産物

H25 ゆず 全国シェア



出典) 農林水産省 平成25年農業産出額

H25 キウイ 全国シェア



出典) 農林水産省 平成25年産果樹生産出荷統計

- ・近年、地域づくりに欠かせない広い視野と心を持った多様な個性ある人材の輩出を目指した大学・高専・高校・専修学校等の教育機関、産業界・経済界及びNPO、行政等が連携した人材育成活動が活発に行われている。
- ・四国圏は、製造品出荷額等の業種別構成比で約6割を基礎素材型産業が占め、加工組立型産業の割合は23.6%と全国平均の43.5%に比べて少ない。

■ 産学官の連携による活発な人材育成活動

地域の課題の解決を通して、地域社会で活躍できる人材の育成が盛ん



▲ 地場産業での若者のインターンシップ受入れ



▲ 中山間地域をフィールドにしたインターンシップ

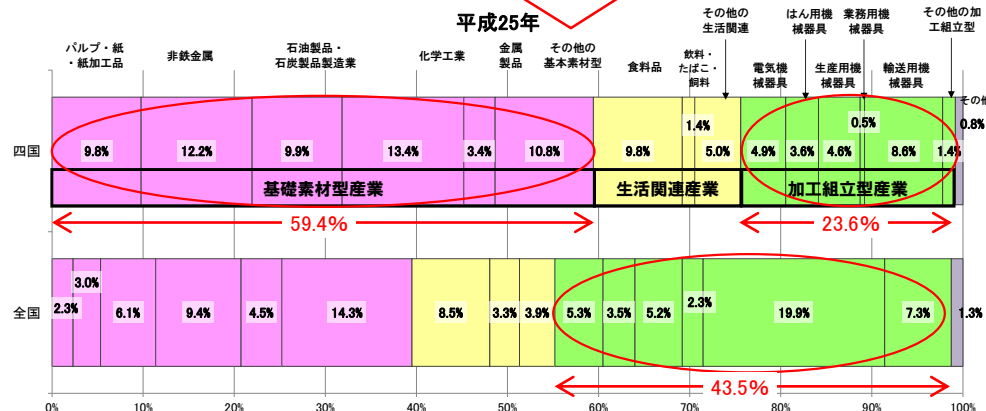
▼ 四国内外の気概ある若者達の交流・学びの場づくり



出典) 四国経済産業局「平成26年度アクションプラン」高知ふるさとインターンシップ(NPO法入人と地域の研究所) HP

■ 製造品出荷額等による業種別構成比

基礎素材型産業が6割を占め、加工組立型産業の割合は少ない



出典) 経済産業省「平成25年工業統計表・産業編」

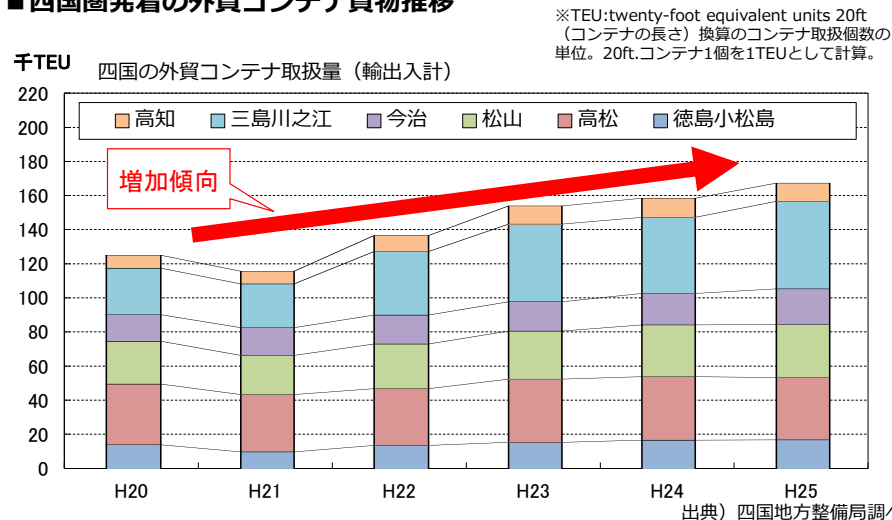
注) 秘匿を除く構成比

1) 四国圏を取り巻く状況

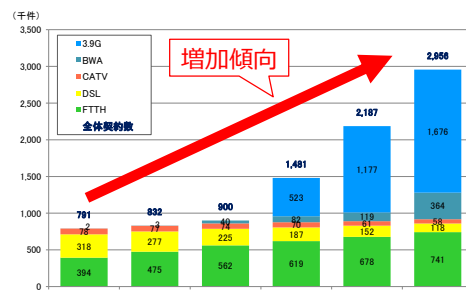
③ 魅力ある地域づくり

- ・本四架橋が開通し、他圏域との交通アクセスが向上し、地域づくりにおいて欠かせない人流・物流等の相互交流が活発化してきている。
- ・情報通信では、超高速ブロードバンドや携帯ネットワークの基盤は高い水準で整備されている。

■ 四国圏発着の外貿コンテナ貨物推移



■ 四国圏におけるブロードバンドサービスの契約数の推移



※電気通信事業報告規則の改正により平成25年3月から、3.9世代携帯電話をデータに追加

出典) 総務省HP 四国におけるブロードバンドサービス及び携帯電話等の契約数（2014年3月末）

■ 四国圏におけるブロードバンドの利用環境

	超高速ブロードバンド利用可能世帯率	ブロードバンド利用可能世帯率
徳島県	100.0%	100%
香川県	100.0%	100%
愛媛県	100.0%	100%
高知県	99.9%	100%
全国	100.0% (99.98%)	100%

出典) 総務省HP ブロードバンド基盤の整備状況（2014年3月末現在）

- ・汚水処理人口普及率は2013年度末現在における全国平均の約89%に対して四国圏では約69%となっているなど基礎的な社会資本の整備が遅れているほか、2014年の病院の耐震化率は香川県の60%を始め、四国各県ともに全国平均の67%を下回るなど、日常の安全・安心にかかわる建築物の耐震化等が遅れている。
- ・四国圏域の広範囲をしめる中山間地域、半島及び島しょ部を中心に過疎地域が分布しており、2010年現在で圏域全体の約23%の人口が過疎地域に住み、その高齢化率は約35%と高い。

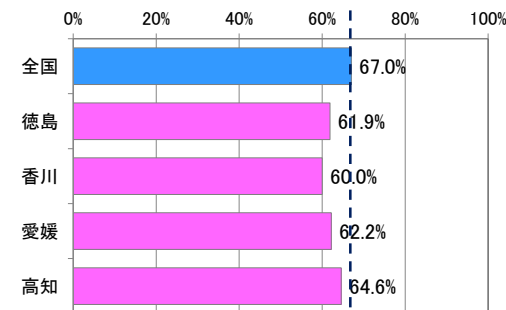
■ 生活基盤の整備状況（汚水処理人口普及率）

	汚水処理人口普及率
四国圏	約69%
(全国)	約89%

全国平均値を下回る普及率

出典) 国土交通省調べ（2013年度末現在）

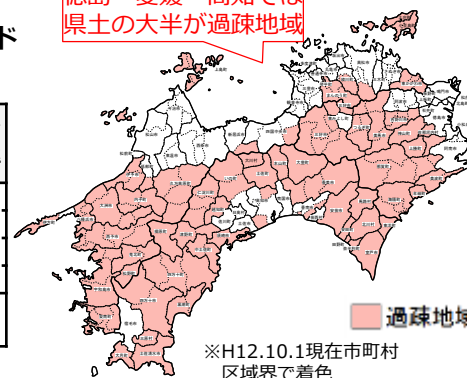
■ 病院の耐震化率



出典) 病院の耐震改修状況調査（2014年9月1日）厚生労働省

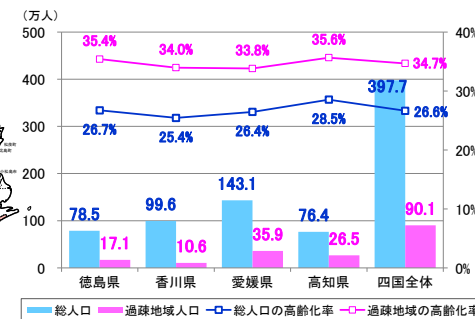
■ 過疎地域の人口と高齢化率

徳島・愛媛・高知では県土の大半が過疎地域



※H12.10.1現在市町村区域界で着色

出典) 総務省「過疎地域市町村等一覧（2014年4月1日現在）」



- ・過疎地域の人口は、圏域全体の約23%を占め、高齢化が顕著

出典) 総務省「国勢調査」※過疎地域の人口は、過疎地域に過半が含まれる2010年国勢調査(区域はH12.10.1現在市町村)における人口合計

1) 四国圏を取り巻く状況

④ 四国圏の魅力・豊富な地域資源を活かした観光活性化

- ・四国圏は、徳島県の「阿波尾鶏」、香川県の「讃岐うどん」、愛媛県の「ジャコ天」、高知県の「かつお」等、全国的にも知られた食品・食材が数多くある。
- ・世界的にも有名な弘法大師縁の地を巡る四国遍路や金刀比羅宮参拝等の信仰文化、全国屈指の認知度、規模を誇る「阿波おどり」や「よさこい祭り」等の踊り、「西条まつり」等の山車を主体とする祭りの数々、我が国最古の温泉と言われる道後温泉など、各地に点在する歴史的街並みも含め数多くの歴史や伝統を物語る文化遺産に恵まれている。

■ 四国圏を代表する食品・食材、歴史や伝統を物語る文化遺産

【愛媛県】



▲ジャコ天



▲西条まつり

【香川県】



▲讃岐うどん



▲金刀比羅宮

【徳島県】



▲阿波尾鶏



▲阿波おどり

【高知県】



▲かつお



▲よさこい祭り

- ・全国で現存する天守12箇所のうち、高知城など4箇所が四国に現存している。
- ・2014年における四国圏への外国人延べ宿泊者数の割合は2014年において国内全体の約0.6%と非常に低い。

■ 四国圏に現存する天守



▲松山城 (愛媛県松山市)



▲宇和島城 (愛媛県宇和島市)

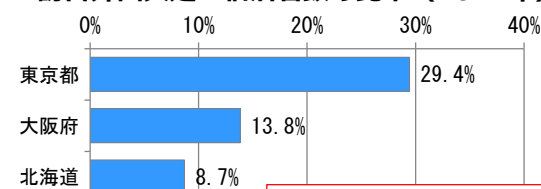


▲丸亀城 (香川県丸亀市)



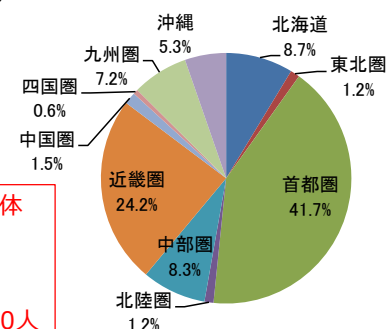
▲高知城 (高知県高知市)

■ 訪日外国人延べ宿泊者数の比率 (2014年)



四国4県合計でも国内全体の約0.6%
 ※延べ宿泊者数
 全国合計：44,824,600人
 四国合計：281,360人

■ 圏域別比率



1) 四国圏を取り巻く状況

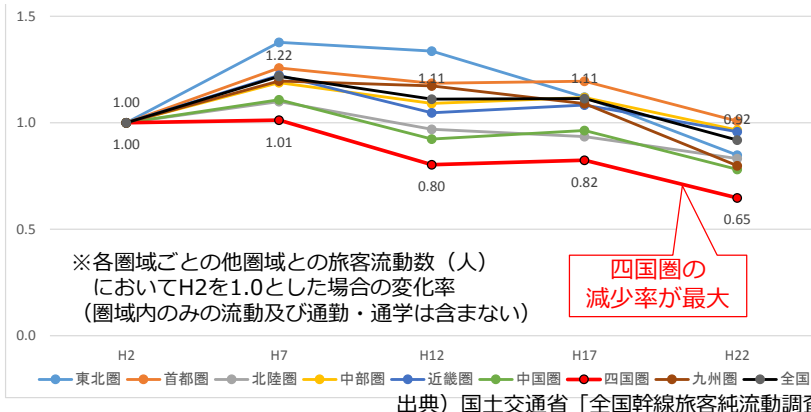
⑤ 圏域内外との交流を促進し対流を促す結びつきの強化

- ・四国圏は、高規格幹線道路等の整備進捗率が全国に比べ低いなど、社会資本による交通ネットワークの整備が全国に比べ遅れている。
- ・住民活動や企業活動の広域化が進む中において、圏域外との旅客流動の近年20年間の減少率が他圏域と比べ最も大きいなど、いまだ圏域内や中国圏・近畿圏・九州圏との連携・交流が弱い状況にある。

■ 高規格幹線道路等の整備状況



■ 圏域外との旅客流動の推移



- ・超高速ブロードバンドを活用し、山村でも仕事ができるサテライトオフィスやテレワーク等の遠隔勤務により、大都市から人や事業所を呼び寄せる先進的な取組が行われるなど圏域を越えた交流の拡大が期待されている。
- ・さらに、近年、四国圏域を経由した他圏域間の交流も増加しつつあり、四国アイランドリーグplusやJリーグを始めとする地域密着型スポーツ活動の広がりもみられ、圏域内外の交流の高まりも期待される。

■ テレワーク等の遠隔勤務



徳島県神山町では、ITベンチャー、映像、デザイン会社などの場所を選ばない企業を誘致、11社がサテライトオフィスを設置し、過疎地における仕事・雇用を創出

出典）まち・ひと・しごと創生に関する有識者懇談会資料（NPO法人グリーンバレー大南信也氏）H26.8.27

■ 四国圏の地域密着型スポーツ活動



出典）四国アイランドリーグplus H P、各チーム公式サイト

今後10年間の圏域づくりに向けて

- ❑ 美しい自然風景、独自の歴史・文化、芸術、確かな力ある産業、個性ある第一次産業や食等、多種多様な地域資源が各地に存在し、現在に受け継がれている。
- ❑ 四国遍路に代表される「癒やし」や「お接待」、「おもてなし」の文化は、現代社会に暮らす人々にとっての心の拠りどころとして、精神的な満足感をもたらしている。
- ❑ 瀬戸内国際芸術祭や瀬戸内しまなみ海道・国際サイクリング大会(サイクリングしまなみ)等の取組を通じ、多島美を誇る瀬戸内海の島々の自然、文化、芸術、食を活かした連携交流が活発に行われているほか、サテライトオフィス、全県的な遠隔医療ネットワークの整備などICTを活用した先進的な取組も行われている。
- ❑ 産業については、高機能素材の一大集積地として大手先端素材メーカーの製造拠点のみならず、優れた技術を有するグローバルニッチトップ企業が集積しており、国内外の市場を切り拓いていくポテンシャルを有している。
- ❑ 四国圏が持つ独自の地域資源や取組の状況を踏まえ、圏域に暮らす全ての人々が四国に住み続けたいと思い、また、圏域の外に暮らす人々が行ってみたい、住んでみたいと思える四国圏を創出することが求められている。
- ❑ 地域の個性を磨き、多様な個性を持つ様々な地域が相互に連携して生じる地域間のヒト・モノ・カネ・情報の双方向の活発な流れである「対流」を湧き起こし、地域の活力の向上とイノベーションの創出を促すことが必要である。

全国計画が目指す国土の基本構想としての「対流促進型国土」の実現に向け、
四国圏においても地域構造としての「コンパクト＋ネットワーク」の形成を進める。

基本方針

太平洋と瀬戸内海に抱かれた地域の強みを活かし、

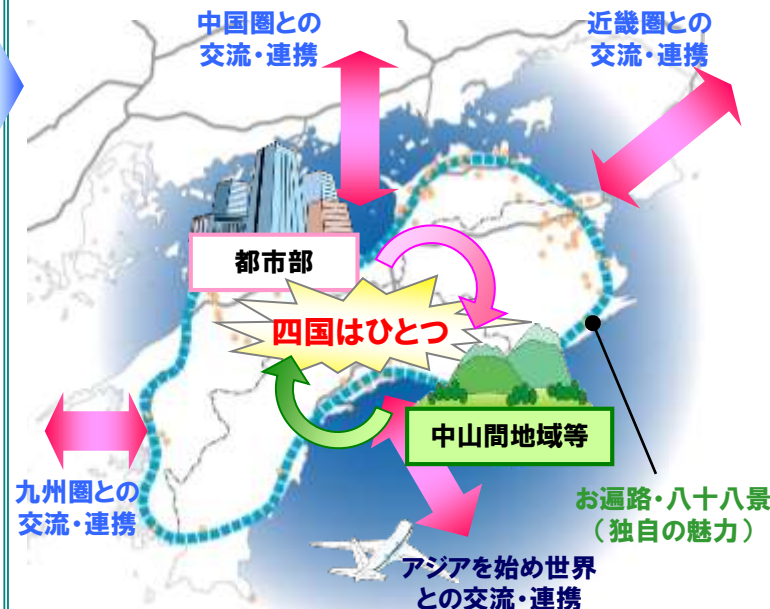
～圏域を越えた対流で世界へ発信～

「癒やし」と「輝き」で未来へ

を今後10年間、新たな四国圏における国土形成の基本方針とする。

四国圏の発展に向けた目標

- ① 南海トラフ地震への対応力の強化等、安全で安心して暮らせる四国
- ② 若者が増え、女性・高齢者等が生き生きと活躍する四国
- ③ 地域に根ざした産業が集積し、競争力を発揮する四国
- ④ 中山間地域・半島部・島しょ部等や都市間が補完しあい活力あふれる四国
- ⑤ 歴史・文化、風土を活かした個性ある地域づくりを進め、人をひきつける四国



3. 四国圏の発展に向けた 取組

取組

(1) 南海トラフ地震に対する安全・安心を確保する

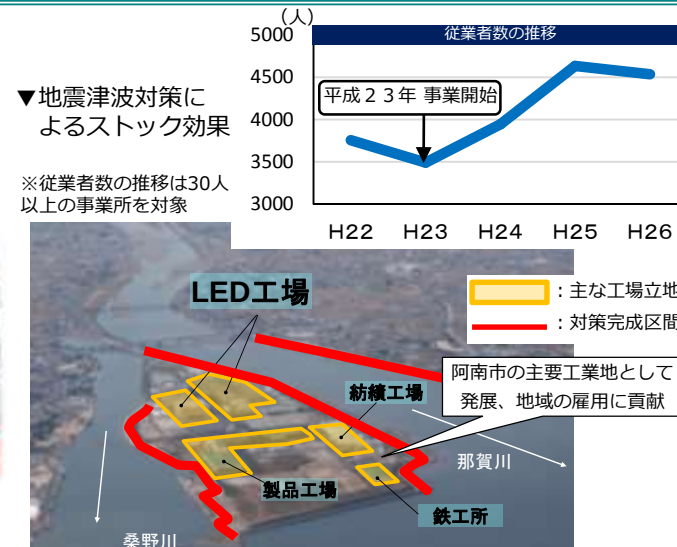
- ・南海トラフ地震等大規模災害への備えを強化
- ・事前防災・災害時のネットワークを強化
- ・広域的な応援体制の構築及び災害対応体制の強化



▲津波防波堤



▲大規模津波防災総合訓練

▲災害時における
通信手段の確保

(2) 台風・豪雨等の自然災害に備えるとともに、地球環境との調和を高める

- ・自然災害への備えを強化
- ・森林、河川流域の適切な整備・保全と水資源の確保
- ・失われつつある自然の保全と共生によるエコロジカルネットワークの形成
- ・持続可能な社会づくりの担い手を育む教育の推進



▲植樹活動



▲河川堤防



▲砂防堰堤



▲道路法面の防災対策

(3) 地域の暮らしを支えるインフラの老朽化対策を推進する

- ・トータルライフサイクルコストの最適化のための戦略的な計画策定・見直しを推進
- ・必要なインフラが安全利用できるよう、計画的な定期点検で状態を把握し、点検結果に基づき計画的な修繕、更新を実施
- ・技術力向上を目的としたインフラ維持管理研修・セミナー等の開催と一般向け情報発信



▲高所作業車による定期点検



▲メンテナンス研修 (橋梁)

取組

(1) 若者の希望実現に向け、魅力ある地域づくりを推進する

- ・若者が希望を持って働き、生活することができる地域づくりを推進
- ・大学等の機能強化・魅力向上や学校とハローワークの連携による雇用のミスマッチ解消
- ・若者と地元企業を有効に結びつけるための就職支援



▲四国圏の魅力を若者に伝える交流イベント



▲学問への関心を高める大学主催の体験イベント



▲新卒応援ハローワークにおける職業相談



▲大学等での就職セミナー



▲婚活支援サポート

(2) 女性のさらなる活躍と元気な高齢者の社会参画を促進する

- ・まちづくりや子育て支援による女性活躍社会の実現
- ・元気な高齢者の社会参画による地域コミュニティの活性化



▲地域子育て支援(放課後児童クラブ)



▲女性が活躍しやすい社会(男女共同参画による防災講座)



▲高齢者の社会参画(観光ボランティアガイド)

(3) 障がい者自らが社会に参加し、能力を最大限発揮し得る社会の実現を促進する

- ・身近な地域で相談支援を受けることのできる体制の構築
- ・雇用の促進及び就労支援の充実



▲障がい者とサポーターによる移動販売

障がい者の就労支援▶



(4) 地域の暮らしの快適性を高める共助社会づくりを促進する

- ・安全・安心で快適な生活環境づくり
- ・「コンパクト+ネットワーク」による地域づくり
- ・地域づくりの担い手の育成と多様な主体が参加できる共助社会づくり



▲鉄道駅のバリアフリー化(スロープ設置)

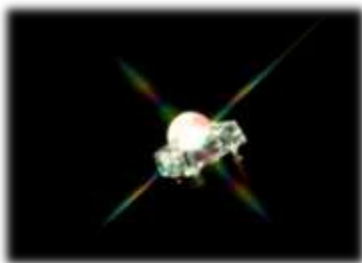


▲道路清掃ボランティア

取組

(1) 地域資源や技術を活かし、アジアを始め世界に通用する産業競争力を強化する

- ・グローバルな競争にも勝ち抜ける力強いものづくり産業を再興
- ・四国圏の持続的な成長の糧となる新たな産業の創出や起業・創業等を促進
- ・産学官連携等によりイノベーションを促進
- ・付加価値を高め、職業として魅力を感じる農林水産業を確立



▲LED (発光ダイオード)



▲船舶用ディーゼルエンジン

(2) 技術力や特産品を国内外へ売り込み、新たな市場を切り拓く

- ・ものづくりの高い技術力等を国内・海外に売り込む
- ・多くの人々を惹きつける四国産品や観光資源を国内・海外に売り込む
- ・成長著しい海外の活力を積極的に取り込む



▲中小企業のアジア市場等への展開



▲海外展開に関する交流会

(3) 産業の成長力を支える人材を育成・確保する

- ・学びの場を創り出し、四国圏の産業の成長を支える多様な人材を育成
- ・四国圏の活力となる人材を呼び込む
- ・多様な人材の活躍を促進
- ・大学等の充実強化を図り、産業人材の育成や産業競争力の強化などを促進
- ・建設業における中長期的な担い手確保



▲産学官連携による人材育成



(4) 産業の基盤を支え、競争力の強化のために必要なインフラ整備を推進する

- ・産業の基盤を支えるインフラ整備を推進
- ・インフラ機能の強化・高度化及び多機能化の推進

高速道路の
延伸による
ストック効果



出典）海面漁業生産統計

取組

(1) ICTで農山漁村の生活環境を整備し、大都市から人を呼び活性化する

- ・ICTを活用することで、農山漁村の生活環境の整備を推進
- ・安心して暮らしやすい農山漁村の形成
- ・大都市から人を呼びよせることで、農山漁村の活性化を図る



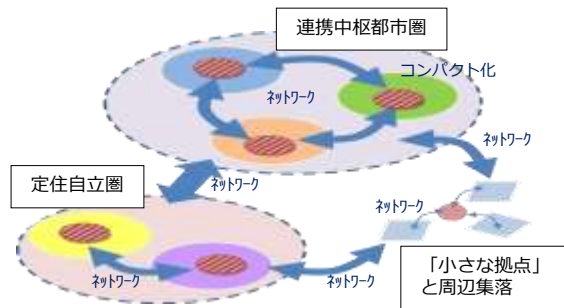
▲ICTを活用したオンライン塾



▲NPO等による自然再生活動の支援

(2) 個性ある地域をネットワークで連携し『コンパクト+ネットワーク』を実現する

- ・地域間をネットワークで結び、都市間の連携を図る
- ・都市圏の連携による活力ある経済・生活圏の形成
- ・基幹集落に暮らしの安心を支える複数の生活サービスや地域活動の場を集めた「小さな拠点」を核とし、中山間地域・半島部・島しょ部等の維持・活性化を図るための仕組みづくりの推進



▲コンパクト+ネットワークの都市構造イメージ



▲フェリーによる離島航路の確保



▲道の駅を核とした「小さな拠点」

(3) 農山漁村の基幹産業の強化を図り、雇用を創出する

- ・農山漁村の基幹産業である農林水産業を強化し成長産業化
- ・雇用を創出することで、農山漁村の活性化を図る
- ・公共建築物の木造化等による新たな木材需要の創出
- ・需要者ニーズに対応した国産材の安定供給体制の構築
- ・農林水産業に対する野生鳥獣被害対策の推進



▲環境を付加価値とした雇用創出



▲公共建築物の木造化

▲野生鳥獣被害対策の推進
(シカ捕獲用小型囲いワナ)

取組

(1) 美しい風土と地域資源を活かし地域の魅力を高め、国内外に向けて発信する

- ・一次産品を用いた四国ブランドの育成など、地域資源の魅力を向上
- ・地域の魅力を積極的に国内外へ発信

【四国各県におけるブランド特産品】

▲愛媛Queenスプラッシュ
(愛媛県)

▲オリーブ (香川県)



▲フルーツトマト (高知県)



▲なると金時 (徳島県)

(2) 歴史・文化的資源、美しい自然、ふるさとの風景を継承し地域が一体となった四国モデルの創出

- ・四国圏独自の文化を保全・継承する人材及び地域おこしの人材育成
- ・美しい自然を舞台とした地域独自の風景づくり



▲美しい棚田の風景



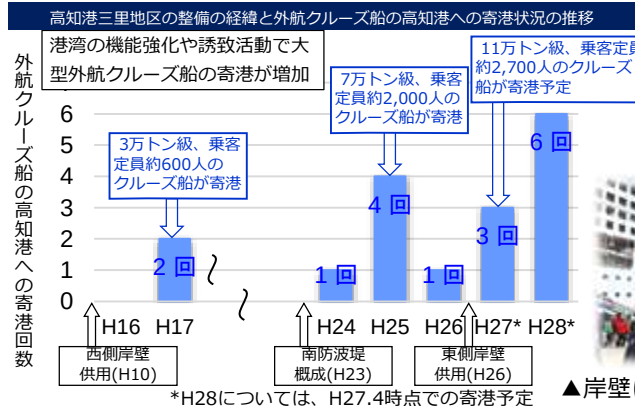
▲観光ボランティアガイドの育成

(3) 圏域内外やアジアなど国外との連携・交流の促進により観光を活性化する

- ・地域の魅力向上と相互連携の強化により圏域内外の交流を促進
- ・高規格幹線道路や鉄道的高速化等による広域交通ネットワークの整備、強化により、圏域内や近隣の中国圏・近畿圏・九州圏との連携・交流を促進、また、鉄道の抜本的高速化が長期的な検討課題
- ・国際ゲートウェイ機能の強化による国外との交流を促進
- ・広域観光周遊ルートの設定や受入環境の整備によるインバウンド観光の促進



▼港湾整備によるストック効果



▲岸壁に接岸するクルーズ船と乗客

4. 広域プロジェクト

目 標

①南海トラフ地震への対応力の強化等、安全で安心して暮らせる四国
～心穏やかに暮らせるやすらぎの実現～

②若者が増え、女性・高齢者等が生き生きと活躍する四国
～多様な人材が能力を発揮できる社会を実現～

③地域に根ざした産業が集積し、競争力を発揮する四国
～グローバル化を生き抜く産業群の形成～

④中山間地域・半島部・島しょ部等や都市間が補完しあい活力あふれる四国
～農山漁村と都市の共生～

⑤歴史・文化、風土を活かした個性ある地域づくりを進め、人をひきつける四国
～おもてなしの心あふれた癒やしの実現～

広域プロジェクト

No.1 南海トラフ地震を始めとする大規模自然災害等への
「支国」防災力向上プロジェクト

・南海トラフ地震 ・風水害等の自然災害 ・インフラ老朽化

No.2 お遍路の癒やしや四国の文化を受け継ぐ
「史国」伝統継承プロジェクト

・四国霊場八十八箇所 ・歴史伝統文化

No.3 美しい自然とおもてなしの心による
「視国」観光活性化プロジェクト

・広域観光周遊ルート ・自転車
・アート ・八十八景プロジェクト

No.4 全国に先駆けて進行する人口減少への
「子国」支援対策プロジェクト

・人口減少 ・子育て支援 ・少子化・高齢化

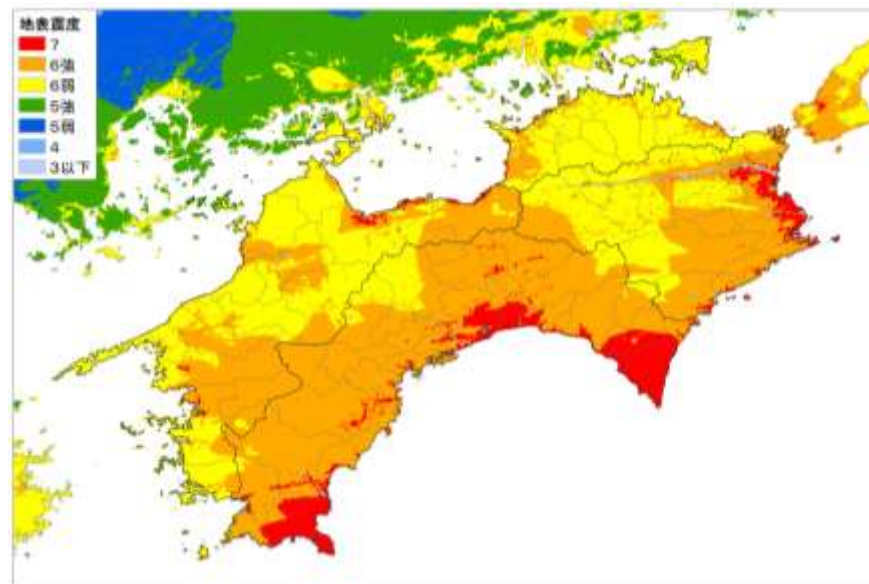
No.5 地域の自立的・持続的发展に向けた
「資国」産業競争力強化プロジェクト

・地域資源や技術の活用 ・国内外の新たな市場 ・人材育成

【 目的・コンセプト 】

■ 災害に強い圏域の形成

- ・ 今後30年以内に発生する確率が70%程度と予測されている南海トラフ地震への備えが急務であるほか、その地形的特性や台風常襲地帯に位置していることなどから、自然災害が毎年のように発生。
- ・ 近年、雨の降り方が局地化、集中化しており、今後、気候変動により水害、土砂災害が頻発、激甚化することが懸念されているとともに、瀬戸内海側は全国でも有数の少雨地帯であることから、渇水被害が頻発するなど、災害に強い圏域の形成が急務。
- ・ 地域の暮らしを支えるインフラの老朽化が今後急速に進むことから、予防保全の実施や戦略的メンテナンスによる安全確保等、老朽化対策の推進が必要。



震度分布図

出典) 内閣府「南海トラフの巨大地震による津波高・浸水域等
(第二次報告) 2012.08」
(強震波形4ケースと経験的手法の最大震度重ね合わせ)

【 目的を達成するための取組 】

① 南海トラフ地震に対する
安全・安心を確保

② 台風・豪雨等の自然災害
に備える

③ 暮らしを支えるインフラ
の老朽化対策の推進

①南海トラフ地震に対する安全・安心を確保

●四国8の字ネットワークの形成等の推進

- 南海トラフ地震や津波等に対し圏域の安全・安心を支える基盤として必要不可欠なインフラとして、四国8の字ネットワークの形成や主要幹線道路の整備を推進



▲高規格・地域高規格道路網の整備状況図

出典) 四国地方整備局資料

●四国地震防災基本戦略の着実な推進

- 「四国南海トラフ地震対策戦略会議」による合同演習、災害時の連絡体制の充実等の予防対策や応急・復旧対策を推進



▲四国南海トラフ地震対策戦略会議



▲緊急避難路での避難訓練



▲地域住民との連携による避難誘導・救出救助訓練



▲緊急支援物資搬入訓練

●地震・津波対策の推進

- 河川・海岸堤防の耐震・液状化対策、防波堤改良や海岸保全施設の整備に加え、これらを組み合わせた「多重防護」としての地震・津波対策、「道の駅」の防災拠点化等を推進

③ 瀬戸湾内のライン

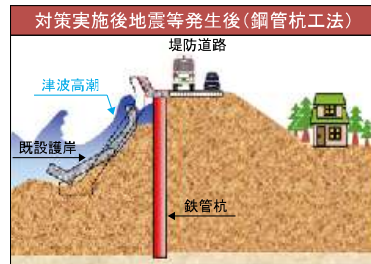
- 地盤沈降等に対応した嵩上げや地盤改良を実施

▼多重防護による地震・津波対策（高知港）



- 凡 例**
- ①第一線防波堤のライン
 - ②湾口部(外縁)のライン
 - ③瀬戸湾内のライン
 - 技術的課題を有する(直轄施工)箇所

期待できる効果	
第①ライン	・津波エネルギーの減衰 ・高知新港の港湾機能の確保
第②ライン	・津波の浸入や北上の防止・低減
第③ライン	・護岸の倒壊や背後地浸水の防止等



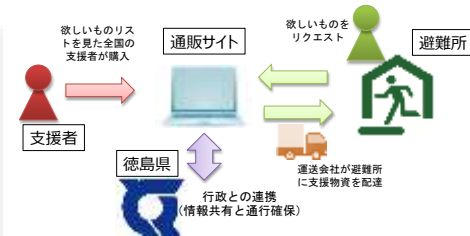
▲海岸堤防における地震・津波対策（高知海岸）



▲「道の駅」の非常用電源装置

●災害に強い物流システムの構築

- 地方公共団体と物流事業者間の連携促進による災害に強い物流システムの構築等により機動的かつ総合的に応援活動が実施できるような体制づくりの推進



▲徳島県の物流事業者との「災害発生時における物資輸送に関する協定」の概要

②台風・豪雨等の自然災害に備える

●自然災害の防止又は被害の軽減

- ・河川堤防の整備、海岸保全施設の整備、ダムの整備や改造、下水道施設の整備、砂防堰堤の整備、地すべり防止対策、治山設備の整備等を推進



▲河川堤防の整備（吉野川水系）

▲ダムの整備 完成イメージ図（横瀬川ダム）

▲ダムの改造（長安口ダム）



【アンカー工】



【排水トンネル工】



【整備前】



【整備後】

治山設備
の整備
（吉野川水系）

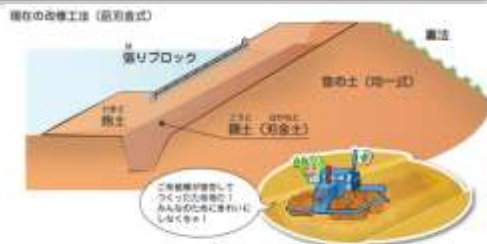
▲地すべり対策（高知県高瀬地域）

●救助・救急、医療活動等やサプライチェーンの寸断回避

- ・主要幹線道路の整備を推進や、老朽化したため池の改修・補強等の対策を推進



▲主要幹線道路の整備（高知松山自動車道）



▲ため池の改修工法（香川県）

ダンピングローラ
機械使用の
方法

●住民の避難力向上に向けての取組

- ・住民の避難力向上に向けて、防災教育や避難訓練の実施等防災知識の普及に関する取組を推進



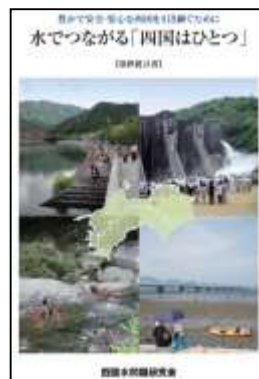
▲水防活動の掲示活動



▲関係機関や地域住民の参加による総合水防演習の開催

●良質な水の安定した供給

- ・安定的な水需給バランスを確保し、地震等の大規模災害、危機的な渇水、上水道・工業用水・農業用水に係る施設等の水インフラの老朽化といった水供給に影響の大きいリスクに対しても、良質な水を安定して供給するための取組を推進

▲四国水問題研究会
（最終提言書）

▲早明浦ダム



▲旧吉野川河口堰



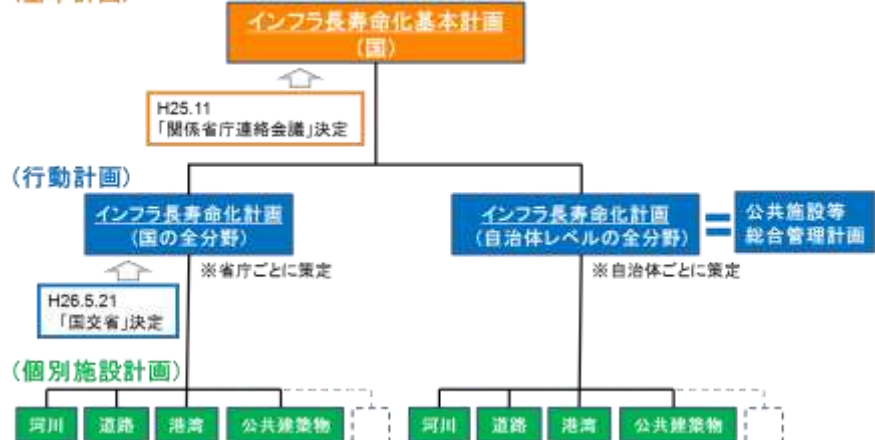
▲調整池（宝山湖）

③暮らしを支えるインフラの老朽化対策の推進

●「インフラ長寿命化計画（行動計画）」や「個別施設毎の長寿命化計画（個別施設計画）」の策定・見直し

- 今後、急激に進むと考えられる社会インフラの老朽化に対し、「インフラ長寿命化基本計画」に基づいた「インフラ長寿命化計画（行動計画）」や「個別施設毎の長寿命化計画（個別施設計画）」の策定・見直しを引き続き推進

（基本計画）



▲インフラ長寿命化に向けた計画の体系図

●インフラ施設の定期的な点検の実施

- あらゆる既存のインフラを安全に安心して利用し続けることができるように、技術面や人員面での支援によって持続可能なメンテナンス体制を構築し、橋梁やトンネル等の道路施設や河川、ダム、砂防、海岸、下水道、港湾、空港等の各施設の計画的な定期点検を実施



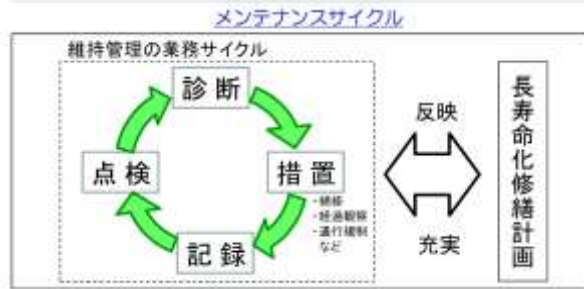
▲橋梁の近接目視点検

▲橋梁点検車による定期点検

▲栈橋下面部の定期点検

●持続可能なメンテナンス体制とメンテナンスサイクルの構築

- 定期点検の結果により、インフラの状態を把握した上で、必要な対策を適切な時期に、適切な方法で実施するとともに、得られた施設の状態や対策履歴等の情報を記録し、次期点検・診断等に活用する「メンテナンスサイクル」の構築を推進



▲メンテナンスサイクルの概念



▲高知県道路メンテナンス会議

●予防保全型維持管理の導入

- 損傷が軽微な段階に予防的な対策を行うことで、機能の保持・回復を図る予防保全型維持管理の導入等を推進



▲予防保全型維持管理の導入



▲炭素繊維シートによる床版ひび割れ対策

●「戦略的なインフラ維持管理・更新」の実現

- インフラの老朽化対策の取組を推進することにより、「戦略的なインフラ維持管理・更新」の実現

【 目的・コンセプト 】

■ 地域の独自性を国内外に発信し、広域的な対流の促進を図る

- ・ 四国八十八箇所霊場巡拝の歴史の中で培われてきた「遍路文化」は、四国共通の文化・アイデンティティとして、次世代に引き継いでいく重要な文化であり、今般、世界的にも注目を集めている。様々な目的を持ったお遍路さんが、お接待文化に代表される四国圏の風土が持つ「癒やし」により精神的健康効果が体感できる、「メンタル・ヒーリング四国」の形成を目指す。このことにより、遍路を通じた国内外の地域と地域、人と人をつなぐダイナミックな対流を湧き起こす。
- ・ お遍路さんが安全で快適に巡ることができる遍路道の整備、各札所周辺・遍路道の文化的・広域的景観の整備及び保全、必要な情報提供の取組を進める。
- ・ 「お接待」に代表される遍路文化は、共助社会に通ずる活動であり、これら文化の普及・継承により持続可能な地域づくりを目指す。
- ・ 四国圏における伝統文化や伝統芸能、文化財等に接し、学ぶ機会をつくることで、圏域独自の歴史・文化を次世代に引き継ぐ人材を育成し、さらに、地域の独自性を国内外に発信することで、広域的な対流の促進を図る。



【 目的を達成するための取組 】

① 遍路文化を核とした
四国遍路の魅力発信

② 遍路道、札所周辺
の環境整備

③ 伝統的な文化を
次世代に継承

① 遍路文化を核とした四国遍路の魅力発信

●「日本遺産」認定を契機とした取組

- ・2015年4月の「日本遺産」認定を契機として、外国人観光客に対応した取組、遍路文化の体験型観光メニューなどの開発・展開を多様な主体と連携

◆四国4県では四国遍路の魅力を発信し、活用していくための様々な取組を実施

○「四国遍路」日本遺産魅力発信推進事業の主な取組

- ・ベンチ・サイクルスタンドの設置
- ・地図アプリの作成

※日本遺産

地域の歴史的魅力や特色を通じて我が国の文化・伝統を語るストーリーを「日本遺産 (Japan Heritage)」として認定するもの。
有形・無形の様々な文化財群を総合的に活用する取組を支援。

●多様な主体が参画し、世界遺産登録を目指す
「『四国八十八箇所霊場と遍路道』世界遺産登録推進協議会」等の活動を推進

◆世界遺産登録推進協議会の活動部会では遍路道のパンフレットやみち案内表示シート、トイレマップなどを作成

○世界遺産登録推進協議会の活動部会

- ・「普遍的価値の証明」部会
- ・「資産の保護措置」部会
- ・「受入態勢の整備」部会
- ・「普及啓発」部会



▲ニューヨーク・タイムズ紙が「2015年に行くべき52箇所」に、日本で唯一「四国」を掲載
出典) (c) The New York Times



▲世界遺産であるスペイン「サンティアゴ・デ・コンポステーラの巡礼路」との友好交流協定の締結や、「熊野古道」との連携した取組を実施して、世界に向けPR



●スペイン政府観光局



▲サンティアゴ・デ・コンポステーラの巡礼路と熊野古道



▲パンフレット・ポスター・のぼり

② 遍路道、札所周辺の環境整備

● 歩き遍路の危険箇所対策

- ・お遍路さんが安全で快適に巡拝できる環境を整備するため、多様な主体が協働し、遍路道の修繕や交通安全対策を行うとともに、休憩所や公衆トイレなどの整備を推進



◀ お遍路さんの安全のために
遍路道の修繕を実施

道路にグリーンライン▶
を設置し、ドライバー
に対しおもいやり運転
を視覚的に呼びかけ、
歩行者の安全を確保



▲ 注意喚起式発光灯等を設置しトンネル内におけるお遍路さんの安全な通行を確保

- ▶ 歩道や広場の整備など札所周辺の環境整備に取り組み、にぎわいを創出



危なくて
歩きにくい…

道がわから
ない…

トイレは
どこだろう

トンネルの
中は暗くて
こわい

ゆっくり休憩
できる場所
はないかな…

● 情報を記載したウェブコンテンツの作成・Wi-Fiスポットの整備

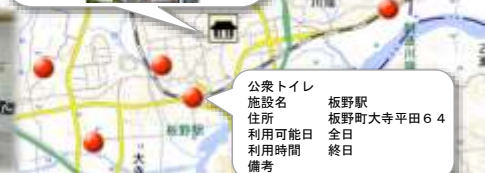
- ・道の駅等の休憩所・公衆トイレ・コンビニエンスストア等の場所や公共交通機関の情報を掲載したウェブコンテンツの作成、四国4県で統一した共通の案内標識及びWi-Fiスポットの整備等の推進



▲ ボランティアによる
石柱の設置



▲ 歩き遍路のための4県統一デザイン「みち案内表示シート」を設置



▲ 遍路道周辺に
多目的トイレを設置

▲ 遍路道の周辺のトイレを紹介した
トイレマップをHPにて公表



▶ ボランティアによる遍路小屋設置
のプロジェクト（四国八十八ヶ所
へんろ小屋プロジェクト）

③伝統的な文化を次世代に継承

●お接待文化の継承とおもてなし文化の活性化

- ・世界遺産登録に向けたおもてなし文化の活性化を進めるとともに、ボランティアの育成等を行い、お接待など遍路文化の継承を推進



▲ボランティアによるお接待

▲おへんろ交流サロン
(さぬき市前山)▲お遍路親子ウォーキング
(NPO法人遍路とおもてなしのネットワーク)▲ボランティアによる案内
(さぬき市おへんろつかさの会)

※お接待

お遍路さんに茶菓や食事などをふるまったり、宿を提供したりする風習のこと

西条まつり

江戸時代から続く五穀豊穡を感謝する神事。奉納される屋台(だんじり、みこし、太鼓台)の数は日本一ともいわれる(愛媛県西条市)



野間獅子連中

継ぎ獅子(つぎじし)と呼ばれる伝統的な獅子舞(愛媛県今治市: 県指定無形民俗文化財)



●歴史・文化を次世代に引き継ぐ人材を育成

- ・歴史や文化とふれあい、学ぶことができる体験型施設の整備等を通じ、文化財への関心や保護の意識を高め、次世代に引き継ぐ人材の育成を推進



土佐の神楽

高知県の四国山地に沿う地域に伝わる神楽の総称で各地の保存会により伝承されている(国指定重要無形民俗文化財)

よさこい祭り

高知市内の演舞場などで鳴子を持った踊り子や装飾された地方車(じかたしゃ)が個性を競う



旧金毘羅大芝居 現存する日本最古の芝居小屋であり毎年「四国こんぴら歌舞伎大芝居」が開催されている(香川県琴平町: 国指定重要文化財)



復元塩田

塩づくりの歴史を後世に伝えるため、塩田を復元。昔ながらの塩づくりを体験できる(香川県宇多津町)



阿波おどり

400年の歴史を持つ日本三大盆踊りのひとつで、盆踊りの中では国内最大規模を誇る(徳島県)

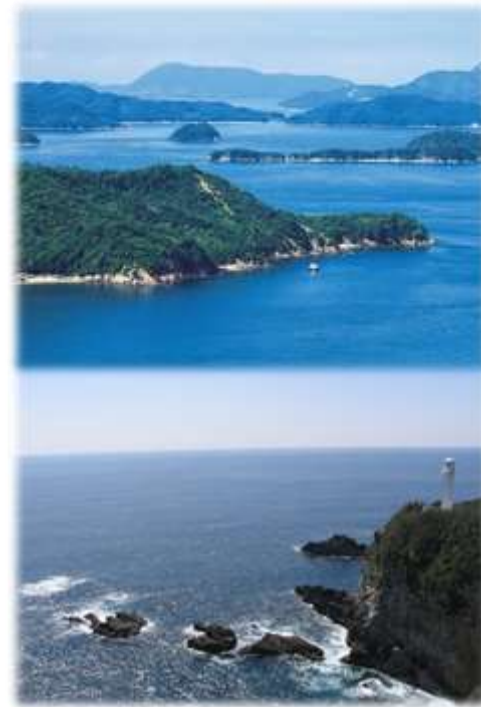


阿波人形浄瑠璃 多数の人形座が伝統を支え、農村舞台など屋外での公演も特徴的(国指定重要無形民俗文化財)

【 目的・コンセプト 】

■ 四国圏への観光客増加と地域活性化の実現を図る

- ・ 四国は、1200年以上続く「四国遍路」やお接待の文化が根付くスピリチュアルな島であり、海・山・川など豊かな自然と土地の人々の温かな「おもてなしの心」に触れることを通して、癒しを実現できる場所。
- ・ 近年、日本を訪れる外国人観光客が増加傾向にあり、四国圏においても2014年の外国人延べ宿泊者数が対前年比28%増の約28万人泊となるなど、東アジアからの外国人旅行者数が伸びており、2015年はさらに大幅に更新する見込み。
- ・ 旺盛なインバウンド需要を取り込むために、四国圏の有形無形の資源を活かし骨太な観光動線をつくることで外国人観光客に四国圏をPRしていく「広域観光周遊ルート」や、着地型旅行商品の開発を通じて魅力ある観光地域づくりを目指す「観光圏」の取組等により、四国圏独自のお遍路文化や自然・歴史等を活かした魅力ある観光地域づくりを促進。
- ・ 四国圏の観光の魅力をWEBや放送コンテンツにより積極的に情報発信し、滞在型観光、体験型観光による交流人口の拡大による地域の活性化を図る。
- ・ 訪日外国人旅行者を円滑に受け入れるために受入体制の整備を推進して、四国圏への観光客増加と地域活性化の実現を図る。



【 目的を達成するための取組 】

① 「広域観光周遊ルート」等による
観光振興

② 四国圏の特徴を活かした観光による
交流促進

①「広域観光周遊ルート」等による観光振興

●広域観光周遊ルートの形成等の取組を促進

- ・広域観光周遊ルートの形成により複数の県を跨がって、テーマ性・ストーリー性を持った一連の魅力ある観光地をネットワーク化するとともに、骨太な「観光動線」とすることで、四国圏をまだみぬ魅力あふれる観光地として海外に向けて積極的にPRし、外国人観光客の来訪を促進

広域観光周遊ルート「せとうち・海の道」



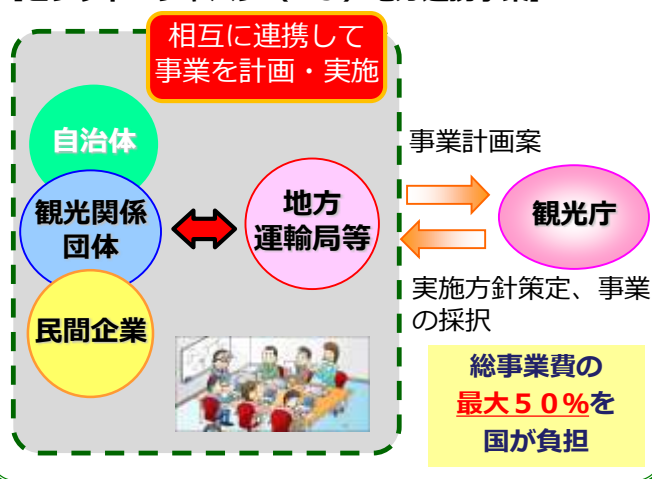
広域観光周遊ルート「スピリチュアルな島～四国遍路～」



●インバウンド観光の振興

- ・国と連携先が共同して実施するビジット・ジャパン（VJ）地方連携事業として取り組む訪日プロモーション活動等の展開を通じて、四国圏の魅力を積極的に発信して、来訪者を増加

【ビジット・ジャパン（VJ）地方連携事業】



▲海外の旅行業者に四国の魅力をPR（旅行商談会）



▲観光列車など多様な素材で四国の魅力をPR（視察旅行）



▲免税店制度の拡充により外国人旅行者のショッピング意欲を刺激



▲外国メディアによる番組制作（webに動画を掲載）

①「広域観光周遊ルート」等による観光振興

●日本風景街道による美しい街道づくり

- ・「道」を舞台に地域住民、NPO及び自治体等の多様な主体が協力し、地域ならではの景観・自然・歴史・文化等の地域資源を活かした活動により、美しい国土景観の形成や地域活性化、観光振興につなげていく

●地方創生の核となる「道の駅」の機能強化等の推進

- ・地方創生の核となる「道の駅」の機能強化等の取組を推進し、「道の駅」を地域の歴史・文化、地域資源を発信する場所として活用するなど、地域の観光振興の核として位置付け、観光拠点化する取組を支援



日本風景街道

○「地域の資源」と「活動する人たち」、「活動内容」、「活動の場」から構成され、多様な主体による協働のもと、景観、自然、歴史、文化等の地域資源を活かした国民的な原風景を創成する運動を促す



▲道の駅の企画・運営を支える生産者チーム



▲道の駅に出荷する地場農産物にトレーサビリティやPOS（生産履歴管理）システムを導入



▲香川せとうちアート観光圏



▲にし阿波～剣山・吉野川観光圏

●観光圏の形成を支援し、国際競争力の高い魅力ある観光地域づくりを推進

- ・自然・歴史・文化等において密接な関係のある観光地を一体として、地域の関係者が連携し、幅広い観光資源を活用して、観光客が滞在・周遊できるよう、国際競争力の高い魅力ある観光地域づくりを推進

②四国圏の特徴を活かした観光による交流促進

●四国八十八景による魅力発信

- ・四国圏の素晴らしさを実感できる「眺め」とそれを「眺める場所」を一組として選び、素晴らしい眺めが長く保たれる取組や眺める場所としてふさわしい環境の整備を行うなど、魅力ある「四国八十八景」を保全・創出



◀ 四国八十八景プロジェクト

●圏域内外の交流・連携の強化

- ・圏域内外の交流活性化等による活力と魅力の向上を図るため、本四架橋やフェリー航路等の利用促進や離島架橋の整備の推進、四国8の字ネットワークの形成等主要幹線道路の整備を推進

▲主要幹線道路の整備
(大洲・八幡浜自動車道)

- ・「環瀬戸内海地域交流促進協議会」では「スポーツ」、「海」、「歴史・文化」、「食」をテーマに、経済界、自治体等が一体となって環瀬戸内海地域の魅力を国内外に発信

環瀬戸内海地域のスポーツ観光の振興

環瀬戸内海の「海」の魅力の発信

環瀬戸内海地域の歴史や文化のネットワーク化

環瀬戸内海地域における食文化の発信・伝承

▲環瀬戸内海地域交流促進協議会
における新たな取組

- ・港の既存ストックを有効活用して、地域住民と来訪者の「にぎわい交流拠点」として「みなとオアシス」を活用し、クルーズ船の受入環境を改善

●「瀬戸内海観光連携推進会議」や「みなとオアシス」等によるクルーズ船受入環境改善

- ・「瀬戸内海観光連携推進会議」による国内外に向けた瀬戸内海の魅力の情報発信や、クルーズ船の受入環境改善を図るための積極的な情報発信により寄港地誘致を促進し、寄港地におけるおもてなしの機運醸成や寄港地周辺での観光ルート形成等を推進



▲寄港地におけるクルーズ船歓迎イベント



▲海外向け広報DVD

②四国圏の特徴を活かした観光による交流促進

●「自転車」を軸とした連携による魅力発信

- ・四国圏を「サイクリング・アイランド四国」として広く国内外に情報発信し、国際大会や全国的な自転車イベント等の開催を通じて、国内外からの観光客を誘致



▲瀬戸内しまなみ海道・国際サイクリング大会の開催

●快適な自転車走行環境の整備

- ・レンタサイクルやサイクルオアシス（休憩施設、宿泊施設等）の受入環境の整備・機能強化、自転車走行レーンの表示（ブルーライン）等の整備を促進

休憩所（しまなみ▶
サイクルオアシス）◀宿泊施設
（シクロツーリズム
しまなみ）自転車走行レーン▶
（ブルーライン）
の整備

歴史文化道モデル地域



▲歴史文化道モデル地域

●「アート」を軸とした連携による地域活性化

- ・四国圏を「アートアイランド」として印象付けるための情報発信や「アート」を軸とした魅力を国内外に積極的に情報発信することで、四国圏の交流人口を拡大させ、地域を活性化



▲瀬戸内国際芸術祭2016



▲瀬戸内美術館ネットワーク

●四国歴史文化道による魅力発信

- ・官民が一体となった「歴史文化道」の事業による歴史的文化遺産を結ぶ道路網や標識類の整備の推進により、四国圏への観光客増加と地域活性化を促進

【 目的・コンセプト 】

■ 自立的・持続的に発展する四国圏の実現を目指す

- ・ 圏域外からの移住者を増加させるための情報発信や受入体制の整備、子育てしやすい仕組みの構築・社会風土の醸成による住みやすい・住みたくなる地域づくりを行い、四国圏に人を呼び込み、定着させ、人口減少をできる限り食い止める必要がある。
- ・ 若者の働く場の確保、女性・高齢者等の活躍の場づくり、さらには、拠点機能のコンパクト化や公共交通網再構築によるネットワーク化による都市機能の維持等、活力・魅力あふれる地域を形成し、四国圏に住むすべての人が希望を持てる社会を構築することで、自立的・持続的に発展する四国圏の実現を目指す。



赤ちゃん授業の様子



【 目的を達成するための取組 】

①人口減少対策
としての移住促進

②子育て支援
制度の充実

③少子化・高齢化へ
の対応策の強化

④「コンパクト＋
ネットワーク」の構築

① 人口減少対策としての移住促進

●移住希望者の候補地となるための四国圏の魅力発信

- ・グリーン・ツーリズムの推進や農山漁村への滞在・体験型学習等の取組を推進し四国の魅力を発信することで移住希望者の候補地となることを目指す



▲「四国グリーン・ツーリズム推進協議会」による四国4県の農山漁村交流施設の紹介



▲薪割りや稲刈りなど体験の様子（香川県、愛媛県）



▲子どもたちの学ぶ意欲や自立心を育む、山村留学（高知県大川村）



「棚田オーナー制度」による米づくり体験（高知県橋原町）



●多様な手法による四国圏への移住促進

- ・大都市での四国圏への移住相談や魅力紹介セミナー等の開催、webによる移住情報の発信、空き家バンクに登録した物件を移住希望者への紹介、移住体験住宅を設ける等、様々な媒体を用いた移住に関する具体的な情報発信を実施することにより、四国圏への移住を推進



▲四国暮らしフェアの開催



▲冊子による移住情報の発信

かがわ移住ポータルサイト
かがわ暮(く)らし



▲空家バンクによる情報発信



▲四国4県の移住情報webサイトと移住体験住宅施設のある市町村

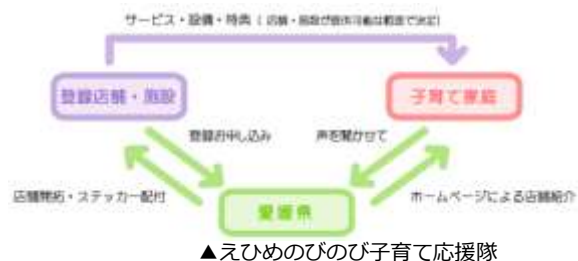
◀仕事・住居・趣味を組み合わせて検索できるシステムの構築（高知県）

▲移住体験ツアー（高知県）

② 子育て支援制度の充実

●子育て活動の支援

- ・4県の連携による子育て家庭を対象とした割引特典や支援サービスの相互提供の取組や、各県で行われている企業の子育て支援活動促進事業等、企業と地域社会の連携による社会全体での子育て活動を支援



●『地域子育て支援拠点』による環境づくりの推進

- ・地域の保育所等身近な場所で、育児中の親子の交流や育児情報の提供等を行う『地域子育て支援拠点』を4県各地域で実施し、気軽に育児の相談等ができる、子育てしやすい環境づくりを推進



※ 地域機能強化型の施設に従事する職員の資質（地域子育て支援の内容や手法等）の向上 ⇒ 専門性強化対策費を支援

▲地域子育て支援拠点の概要

“子育てと自己実現”を一体的にサポートし、「ひろば」から地域へ広げる子育て支援の輪。



▲地域子育て支援拠点（ひろば型）（香川県善通寺市子ども・家庭支援センター内）

③ 少子化・高齢化への対応策の強化

●「四国少子化克服戦略」の推進

・「四国少子化対策会議」（四国4県、四国経済連合会、4県商工会議所連合会等で構成）の四国少子化克服戦略に基づき、若者の早期結婚・出産支援、出生率向上につながる企業の取組促進、四国の若者の純流出抑制等のプロジェクトを四国圏が一体となって推進

少子化・人口減少に関して四国が目指すべき姿

- 若者にとって魅力ある地域づくりを進めることなどによって、四国からの人口純流出に歯止めをかけ、人口純流入をプラスにする。
- 地域が一体となった結婚・出産・子育て支援などによって、若者の「結婚したい」「子どもを持ちたい」という希望が叶う社会を実現する。



▲少子化問題シンポジウムの開催

▲四国少子化克服戦略の概要

●結婚に向けた取組

・各県で未婚男女のマッチング支援や各種イベントの実施等、結婚に向けた取組を促進



WEBによる各種イベントの情報発信やセミナーの開催



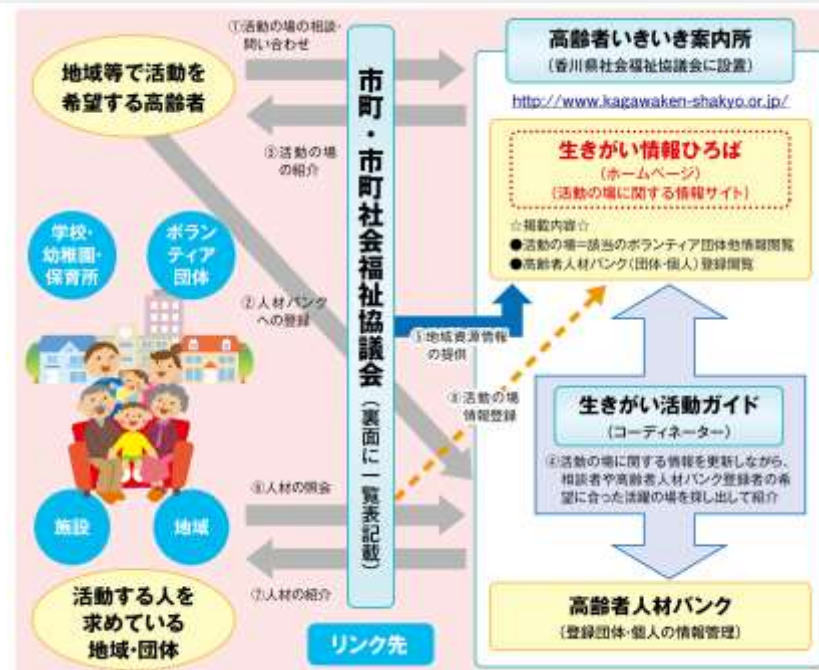
高知で恋しよ!! 応援リポート



▲企業・団体間のネットワークを活用した婚活イベント（徳島県）

●「高齢者いきいき案内所」の活用

・地域活動に関心のある高齢者の方に情報提供を行い、活躍の場へと案内する「高齢者いきいき案内所」の活用を図るなど、高齢者の社会参画に向けた取組を促進



▲香川県の高齢者いきいき案内所の概要

●歩いて暮らせるまち・安全で優しいまちの実現

・安全で快適な自転車利用環境の創出等を推進するなど、歩いて暮らせるまち・安全で優しいまちの実現を目指す



▲通学路への歩道設置

▲防犯灯、防犯カメラの設置

④ 「コンパクト+ネットワーク」の構築

● 持続可能な都市構造の再構築

・拡大した市街地においては、都市の生活を支える都市機能（医療・福祉・子育て支援・教育文化・商業）をまちの拠点となるエリアへ誘導することにより、まちの活力の維持・増進（都市の再生）、持続可能な都市構造への再構築による「コンパクトシティ」を形成

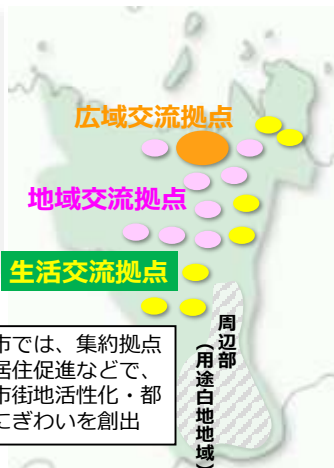


▲高松市丸亀町の商業施設とイベントスペース



高松市では、集約拠点への居住促進などで、中心市街地活性化・都市のにぎわいを創出

▲高松市の多核連携型コンパクト・エコシティ



● 『コンパクト+ネットワーク』の形成

・「コンパクト+ネットワーク」を構築するための基盤整備として、四国8の字ネットワークの形成や主要幹線道路の整備の推進、鉄道やバス等による地域公共交通ネットワークの再構築等によるまちづくりを促進



▲JR松山駅付近連続立体交差

● 「地域包括ケアシステム」の構築

・地域の実情を踏まえた住まい・医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供される「地域包括ケアシステム」の構築を促進

● 「小さな拠点」の形成

・中山間地域においては、地域の拠点としての「道の駅」、住民出資の法人による商店経営、廃校を利用した宿泊施設運営や集落活動センター等を活用し、生活に必要な機能を集約化し、地域の資源・潜在力を活かした新たな魅力創出や活性化を図るなど、持続可能な地域づくりに取り組むことにより「小さな拠点」を形成



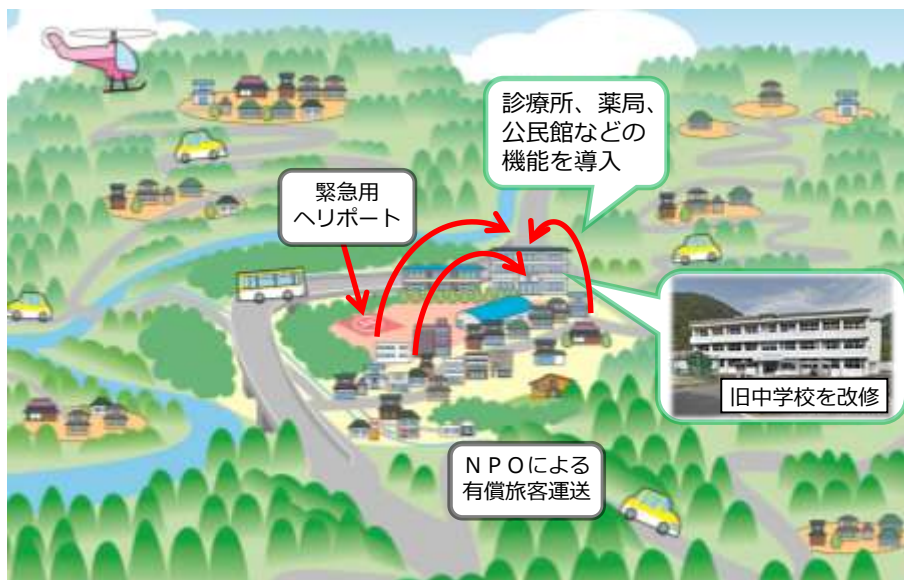
▲道の駅を活用した地域づくり（内子フレッシュパークからり）



▲住民出資によるガソリンスタンドの経営（高知県橋原町）



▲廃校を利用した集落活動センター（高知県黒潮町）



▲木屋平地区（徳島県）での小さな拠点の形成イメージ

〔目的・コンセプト〕

■産業競争力の強化と産業の成長を支える人材の育成・確保が必要

- ・全国に占める割合が高い紙や炭素繊維等の素材産業、造船業、四国圏の強みであるニッチトップ企業など、産学官が連携し地域が一体となり、グローバルな競争に勝ち抜くための産業競争力を高め、その高い技術力等を官民挙げて売り込むことで、受注機会の拡大を図る。
- ・四国圏の持続的发展に向けて、学びの場を創り出し、産業の成長を支える多様な人材を育て、また、活力となる人材を呼び込み、多様な人材の活躍を促進することで、産業の成長を支える人材の育成・確保が必要。



〔目的を達成するための取組〕

①地域資源や技術を活かし、産学官の連携を深め、世界に通用する産業競争力を強化

②技術力や特産品を国内外へ売り込み、新たな市場を切り拓く

③産業の成長を支える人材の育成・確保

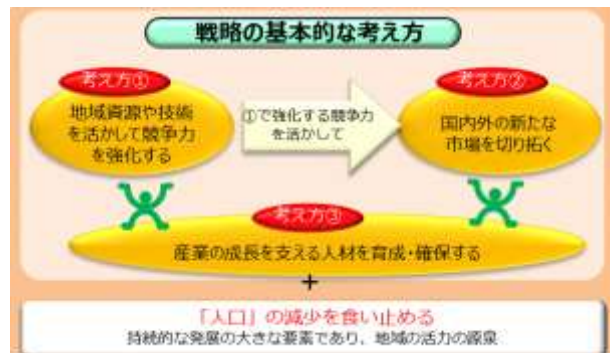
①地域資源や技術を活かし、産学官の連携を深め、世界に通用する産業競争力を強化

●「四国産業競争力強化戦略」の推進

- ・国と地域が連携した「四国地方産業競争力協議会」で競争力の強化に向け策定された『四国産業競争力強化戦略』に基づき、各種事業を実施



▲四国地方産業競争力協議会



▲四国産業競争力強化戦略の考え方

●高機能素材関連産業の創出

- ・素材の高度な機能を活用した高付加価値製品の開発・供給拠点の形成を行い、高機能素材関連産業を創出



▲高機能素材（炭素繊維素材）

●「健幸支援産業」の創出

- ・新たな保険外サービス等の医療介護周辺産業や医療介護等の現場ニーズに対応したもののづくりへの参入を促進



▲健幸支援産業創出プロジェクトの概要



▲医療機関との連携

●イノベーションの促進

- ・四国圏内外の企業・大学等との技術マッチングによるイノベーションの促進を図り、競争力の強化を推進

「知の拠点」の形成

- ①大学等の研究体制の強化
- ②県の試験研究機関の機能強化



「希少糖産業」の創出

- ①希少糖の生産企業や民間研究所の誘致・育成
- ②研究成果を活用した新商品開発支援
- ③産学官連携によるネットワーク等の形成

「香川の希少糖」ブランドの確立

- ①県内外での認知度向上
- ②国際見本市への出展等による希少糖の普及拡大



▲希少糖ホワイトバレープロジェクト（香川県）

●圏域内外の交流活性化、物流基盤機能強化等による活力と魅力の向上

- ・四国8の字ネットワークの形成や主要幹線道路の整備、海上輸送拠点としての国際物流ターミナルの整備、港湾・空港と高速道路 I C や都市の中心部を連結する環状道路等の整備、地域生活の充実や地域経済の活性化に資するスマート I C の整備等を推進



▲圏域内外を結ぶ主要幹線道路の整備（今治小松自動車道）



▲港湾・空港・I C を結ぶ環状道路の整備（松山外環状道路）



▲スマート I C の整備



▲国際物流ターミナルの整備（高松港）



②技術力や特産品を国内外へ売り込み、新たな市場を切り拓く

●世界市場や国内市場への展開

- ・見本市・商談会等への出展や情報発信、営業活動、大企業の技術ニーズとのマッチング等を通じて、官民を挙げて四国圏の企業の技術力等を売り込むことにより、国内・海外での販路を拡大



▲四国企業販路開拓に向け大都市圏での技術展に出展

●官民を挙げて国内・海外での販路を拡大

- ・四国圏が連携して四国産品（農林水産物やその加工品、伝統工芸品等）の販路開拓・販売拡大を推進

四国4県が持つ花の特長や強みを生かし、販売促進と新たな販路を拡大 ▼



▲アンテナショップとの連携

●東アジア市場等をターゲットに販路開拓

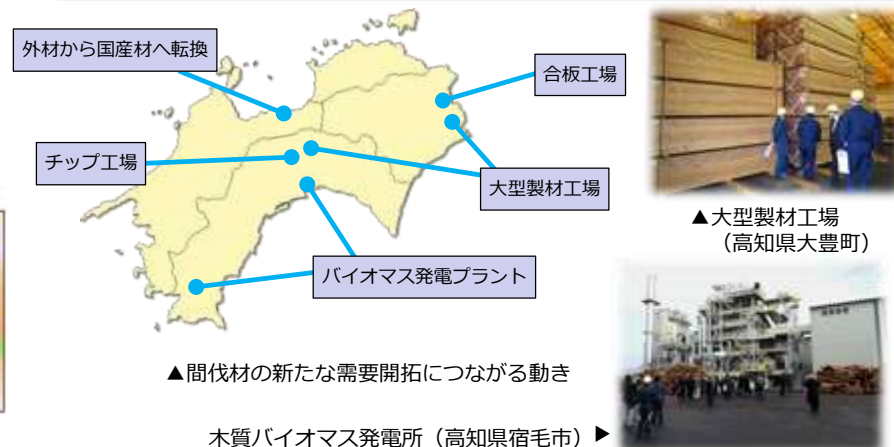
- ・四国圏のブランドイメージの向上を図りつつ、四国圏が一体となった海外販路開拓事業を展開することにより、四国圏内企業等の販路開拓を支援

▲海外での販路開拓活動
(伊勢丹シンガポール四国フェア)

- ▲各種検査・証明書取得等の手続き支援など
四国一体となって売り込み相乗効果を発揮

●間伐材の需要拡大に向けた取組

- ・木質バイオマス発電所等による間伐材の需要拡大に向け、大規模需要者等と協定を締結し、間伐材を大量かつ安定的・計画的に供給するシステムの販売を推進



▲間伐材の新たな需要開拓につながる動き

木質バイオマス発電所（高知県宿毛市）▶

▲大型製材工場
(高知県大豊町)

③産業の成長を支える人材の育成・確保

●次代を担う人材の育成

- 産業の発展につなげるため、産業人材の育成研修や交流ネットワークづくりを四国圏が連携して取り組む



▲CFRP（炭素繊維強化プラスチック）加工実習の様子



▲今治地域造船技術センターでの研修の様子



▲林業技術者育成研修の様子



▲四経連グローバルチャレンジセミナーの様子

●四国圏の活力となる人材の確保

- 自然や暮らし、仕事等の魅力や情報を発信し、移住やU I Jターン就職を四国圏が連携して促進することにより、活力となる人材を呼び込む



▲四国4県が連携し、首都圏の住民等を対象に四国の魅力を発信

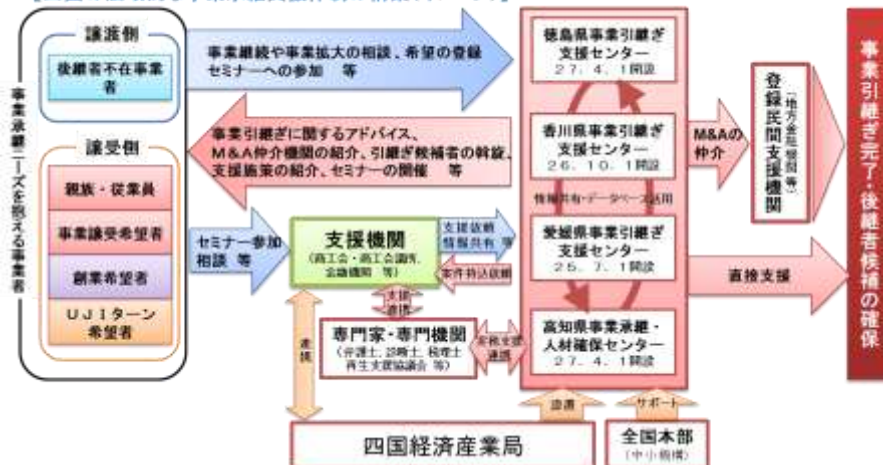


▲首都圏、関西圏等での合同企業面接（説明）会の開催（イメージ）

●雇用確保と事業者の新陳代謝を促進

- 後継者不足等により事業の存続に悩みを抱える中小企業と事業譲受希望者とのマッチングによる事業承継支援を行うことにより、域内の雇用確保と事業者の新陳代謝を促進

【四国の広域的な事業承継支援体制の構築（イメージ）】



▲事業譲受希望者とのマッチングによる事業承継支援プロジェクト



▲事業承継支援センターのチラシ（徳島県）



▲事業承継セミナー

▲高知県事業承継・人材確保センター

5. 他圏域との連携

四方を瀬戸内海や太平洋等に囲まれている四国圏は、他圏域と比べて人口集積が低いものの、古くから瀬戸内海を中心とした海路を通じて他圏域との交流が活発に行われ、独自の伝統・文化を育くむとともに、今日においても経済活動や住民生活の面で多様な交流が広がっている。

特に、瀬戸内海を挟んで対面する中国圏とは、本四架橋の開通等を背景に、アートや自転車などの国際的なイベント等を通じて、地域の交流・連携が着実に進展しているが、**観光、産業、防災、環境、人材育成**などの面において共通の課題を有しており、今後もさらなる両圏域の連携が求められているところである。

連携テーマ

- 広域観光・インバウンド観光の促進
- 産業集積地間の連携等による国際競争力強化
- 暮らしの安全・安心と防災ネットワークの整備
- 豊かな瀬戸内海等の環境保全と再生
- 課題を共有した人材育成、地域づくり等の推進

背景・他圏域との連携の方針

- 中国圏等と共有する瀬戸内海は、多島美に恵まれた景観、歴史的な街並み、村上水軍を始めとした遺跡等の歴史文化資源、数多くの定期航路等を有している。近年では、国際的なイベントの舞台としても連携を深化させてきているほか、南北高速道路等の活用により日本海、瀬戸内海、太平洋の3つの海を跨いだ広域観光の推進が望まれている。

観光資源や地域資源を「つなぐ」ことで国内外から多くの観光客を集客し、世界的な観光資源化を目指した観光地の質の向上を図る。

他圏域との連携による取組

- スローツーリズムや海での新たな体験を創出

- 日本の原風景ともいえる海と島・岬等で構成される箱庭的な景観をゆっくり満喫するため、旅客船・フェリー・ヨット・クルーズ船・水上飛行機等、多様な移動手段を演出としても活用



▲室戸世界ジオパーク ▲チャーターヨットによる瀬戸内クルーズ

瀬戸内しまなみ海道・国際サイクリング大会

- インバウンドの振興

- しまなみ海道地区を拠点に広域観光周遊ルート等の形成やクルーズ客船の誘致等推進
- 島を舞台とした国際芸術祭の開催等、国際交流イベントの開催を促進



▲瀬戸内国際芸術祭2016

広域観光周遊ルートの形成
「せとうち・海の道」「スピリチュアルな島～四国遍路～」



▲道後温泉



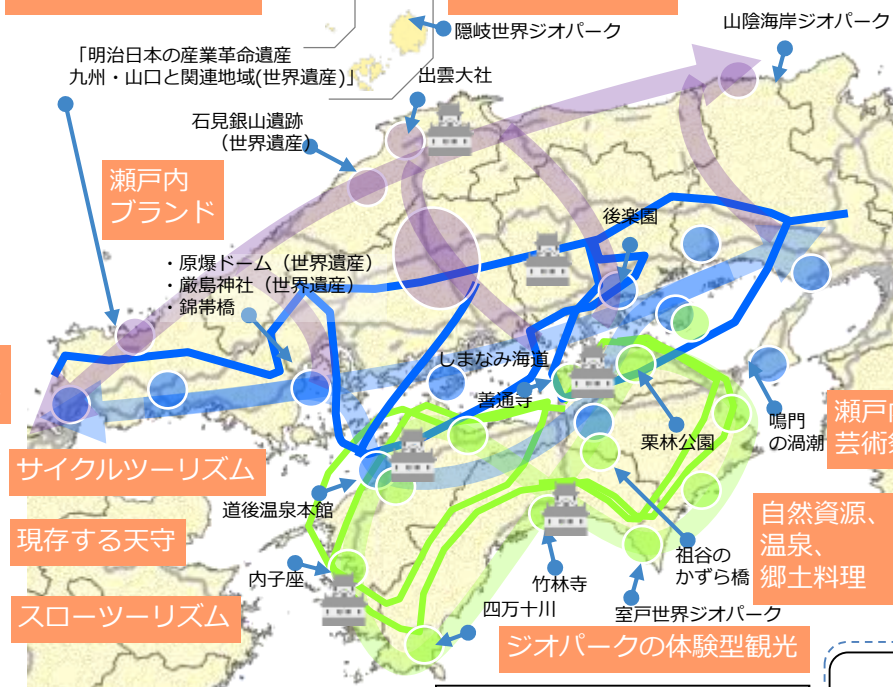
▲栗林公園



▲外国人の歩きお遍路さん

日本の原風景ともいえる海と島・岬等で構成される箱庭的な景観

広域観光周遊ルート



旅客船・フェリー・ヨット・クルーズ船・水上飛行機等多様な移動手段

海での新たな体験

- 日本海・瀬戸内海・太平洋の3つの海をつなぐ広域観光を推進

- 南北軸の高速道路等を活かし、現存する天守等の歴史文化資源、ユネスコ世界ジオパーク等の自然資源、温泉、郷土料理等を連携



▲松山城

▲西予ジオパーク

- サイクルツーリズムの推進に向けた環境整備を促進

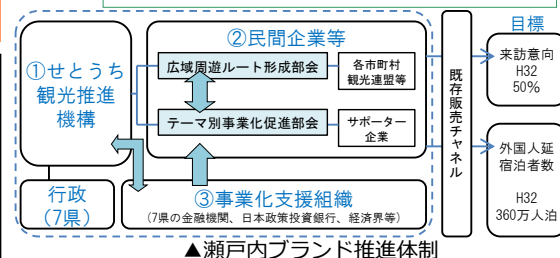


©NPO法人シクロツーリズムしまなみ

▲サイクルオアシス

- 広域観光を支える推進体制の充実

- 瀬戸内海においてそれぞれのブランド戦略作成やマーケティング等を行う組織の設立と活動の推進



- 主要広域観光ルート「せとうち・海の道」「スピリチュアルな島～四国遍路～」
- 広域観光拠点地区「せとうち・海の道」「スピリチュアルな島～四国遍路～」
- その他の観光拠点
- 天守閣が現存する城郭

▲瀬戸内ブランド推進体制

背景・他圏域との連携の方針

- ・瀬戸内海に面する四国圏では、海上輸送に恵まれた地理的特性等を活かして、化学、パルプ・紙・紙加工品等の基礎素材型産業が集積している。
- ・造船業とそれに関連する船体ブロック産業や船用工業、海運業が集積しており、海上物流の利点を活かした緊密な物流ネットワークの構築により、造船業の規模は四国圏・中国圏で全国の4割強を占めている。
- ・新たに高速自動車道路の開通により、南北及び東西方向において、新たに山陰地方や、ものづくり分野の先端産業や新たな成長産業の集積がみられる九州圏、近畿圏、中部圏等との広域的連携が見込まれる。

様々な集積の利点を生かした海事クラスターの強化や、九州圏、近畿圏、中部圏等との新たな大都市圏との連携ルートの活用を図る。

他圏域との連携による取組

●海事クラスターの強化

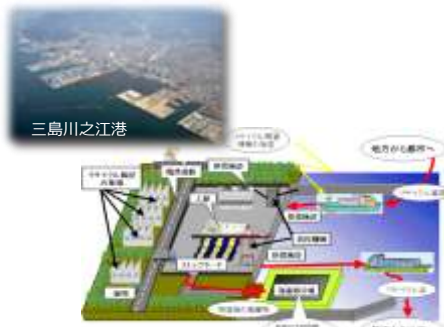
- ・省エネ等の技術力、専門人材の集積、緊密なサプライチェーンを活かして、海事クラスターを強化



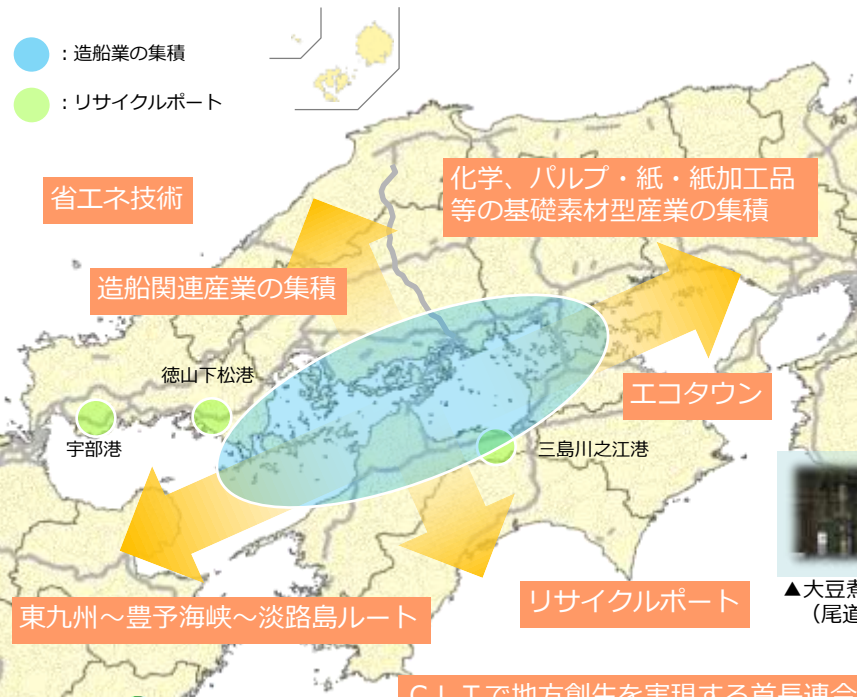
▲今治地域造船技術センターでの研修の様子

●広域的なネットワークの形成

- ・エコタウン事業の取組やリサイクルポートにおける取組等による広域的なネットワークの形成を推進



▲リサイクルポートのイメージ



▲直島町のエコタウン事業

●国際競争力ある広域的な産業集積拠点の形成・強化

- ・ものづくり分野の先端産業や新たな成長産業の集積がみられる九州圏・近畿圏・中部圏等との広域的連携を通じて、国際競争力ある広域的な産業集積拠点の形成・強化を推進



▲CLT（直交集成材）による新たな木材需要



▲ファインバブル発生装置



▲大豆煮汁の濃縮乾燥（観音寺市）→機能性成分抽出（尾道市）→フリーズドライ化（福山市）

●国際競争力のある広域的な産業集積拠点の形成・強化

- ・南北軸の高速道路網や東九州から愛媛、香川、徳島さらに淡路島を経て近畿の大都市圏へつながる物流ネットワーク等を活用

背景・他圏域との連携の方針

- ・四国圏においては、南海トラフ地震の発生時において甚大な被害を受けることが想定されており、四国圏・中国圏9県により「中国・四国地方の災害等発生時の広域支援に関する協定」に基づき、カウンターパート制による支援体制を構築するとともに、瀬戸内海沿岸自治体は、地震等災害時における海上からの緊急支援を目的とした「瀬戸内・海の路ネットワーク災害時相互応援に関する協定」を締結している。
- ・また、離島住民に対する医療サービスや広域救急搬送、災害時における医療体制の確保が望まれる。

広域的な防災体制、支援活動についての具体化を図る取組、陸・海・空での総合的な防災力強化や救急医療体制の連携強化を図る。

他圏域との連携による取組

●広域的な防災活動や支援活動の具体化

- ・「中国・四国地方の災害等発生時の広域支援に関する協定」や「瀬戸内・海の路ネットワーク災害時相互応援に関する協定」の連携体制を踏まえ、広域的な防災活動や支援活動について具体化

●救援・復旧体制の強化

- ・中国圏等他圏域からの早期復旧・復興のバックアップ支援を迅速かつ確実に受け入れるため、「くしの歯ルート」の形成による道路啓開ルートや航路啓開ルートの確保
- ・四国圏・中国圏の各防災関係機関が連携し、大規模災害を踏まえた広域的かつ、より実践的な訓練を実施するなど、総合的な防災力強化



▲四国圏における道路啓開・復旧オペレーション

中国・四国地方の災害等発生時の広域支援に関する協定

瀬戸内・海の路ネットワーク災害時相互応援に関する協定

カウンターパート制による支援体制

- カウンターパート制による支援
- ・食料等の物資や供給に必要な資機材の提供
 - ・被災者の救出等に必要な物資や資機材の提供
 - ・救援活動等に必要な車両等の派遣や資機材の提供
 - ・医療、復旧等に必要な医療・技術職等の職員派遣
 - ・避難者を受け入れる施設の提供 等



大規模災害を踏まえた広域的かつ、より実践的な訓練の実施

●広域防災拠点の整備や災害時の応援・救援体制の連携を推進

- ・大規模地震や津波・高潮等の広域災害が発生した際に陸上交通網が遮断された場合に備え、海上交通の核となる耐震強化岸壁など広域防災拠点の整備や災害時の応援・救援体制の連携を推進



▲中国圏関係機関との合同防災訓練

●救急体制の連携強化

- ・四国圏・中国圏域での血液の安定供給を目的とした中四国ブロック血液センターによる取組や、瀬戸内海の離島住民に対する診療船による医療サービスに加えて、広域救急搬送について緊急医療用ヘリコプター（ドクターヘリ）等も活用した救急体制の連携を強化、あわせて災害時において連携して必要な医療を提供するためのルートの確保



▲中四国血液ブロックセンター



▲巡回診療船



▲ドクターヘリ

背景・他圏域との連携の方針

- 瀬戸内海においては、埋立等により藻場・干潟が減少し、水質悪化も生じていたが、瀬戸内海環境保全特別措置法や水質汚濁防止法に基づく取組を進めてきた結果、水質には一定の改善がみられるようになった。
- 一方、依然として発生する赤潮や貧酸素水塊の対策、生物多様性・生物生産性の維持・向上等、新たな課題に対応する必要があるほか、漂流ごみ・漂着ごみ・海底ごみも問題となっている。

引き続き海ごみ対策に取り組み、美しい瀬戸内海を取り戻し、「豊かな瀬戸内海等の環境保全と再生」を目指す。

他圏域との連携による取組

●瀬戸内海の清掃活動の継続

- 多様な主体による清掃活動の継続や海洋環境整備船による瀬戸内海の環境保全を推進



▲H26「リフレッシュ瀬戸内」の全体拠点
(左：香川県坂出市沙弥)と愛媛県ブロック
拠点(右：西条市高須海岸)



▲海洋環境整備船

●里海づくり活動

- 里海づくり活動など関係機関が連携した沿岸域の環境保全と再生のための多様な活動を広域的に展開



▲アオリイカの産卵礁として間伐材を利用した「しば漬け」づくり(徳島県)



美しい景観・憩い・多様な生物の生息・生育の場としての「庭」、漁業生産の場としての「畑」、物流や人流・物質の供給路としての「道」に例えられる多面的価値・機能が最大限に発揮された「豊かな瀬戸内海等の環境保全と再生」を目指す。

●様々な環境学習の取組

- 四国圏・中国圏に点在するジオパーク等において、その特徴ある地形や地質を通じた地球環境とのかかわりの中で、教育ツアーの実施や体験学習コーナーの設置など、様々な環境学習の取組を推進



▲室戸ジオパーク推進協議会



▲室戸ユネスコ世界ジオパークの教育ツアー



▲四国西予ジオパークのマップ

背景・他圏域との連携の方針

- ・四国圏・中国圏では、これまでも観光振興、産業活性化、防災、環境保全等での連携した取組を展開してきており、そのために行政、産業界、大学、地域住民及びNPO等での多様な連携組織を設立し、その推進を図ってきた。
- ・今後、両圏域は、それぞれの広域地方計画に掲げる将来像を実現するための取組を進めていく上で、観光、産業、防災、環境保全において連携した取組を更に強力に進める必要がある。

連携した取組の推進体制の確立とその担い手のスキルアップや、地域づくり等の共通の課題に対応する取組も含め、多様な担い手の育成について、両圏域が連携して取り組む。

他圏域との連携による取組

○地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）の取組

○因島技術センター、今治地域造船技術センター（造船関係人材育成）

○中国・四国地域人材育成事業（文部科学省・産業界のニーズに対応した教育改善・実体制整備）

○因島技術センターを中心とした人材育成の取組

○中四国・瀬戸内クルージングサミット

○瀬戸内しまなみ海道振興協議会

○九州・中国・四国地域防災情報交換会

○松江・尾道・今治・松山4会頭会議（商工会議所）
域防災情報交換会

○中四国セントラルルート地域連携軸推進協議会

○瀬戸内4県都市長会議

○瀬戸内海環境保全知事・市長会議

○（公社）瀬戸内海環境保全協会

○瀬戸内ブランド推進連合

○瀬戸内海観光連携推進会議

○瀬戸内・海の路ネットワーク推進協議会

○中国・四国地方の災害等発生時の広域支援に関する協定

○CLTで地方創生を実現する首長連合

○ファインバブル地方創生協議会

人材育成の取組

多様な連携組織